

ISSN 1344-7920

名古屋大学医学部保健学科

# 教育・研究年報

第1卷



***Annual Report***  
***of***  
***Nagoya University School of Health Sciences***  
***1999***

## 保健学科教育・研究年報の発刊にあたって

名古屋大学医学部保健学科長

猪田 邦雄

名古屋大学医療技術短期大学部から四年制の保健学科へと発展するなかで、その歩みを共にしてきた短期大学部紀要も10巻でその役目を終え、保健学科教育・研究年報として再出発する運びとなった。紀要は若手研究者や教員により多くの論文発表の機会を提供し、学科を越えた協力・理解の場をも提供することなどを目的に1989年発刊され、これまでに106編の原著論文、30編の総説、報告、資料のほか教育に関する調査などが載せられた。学内とはいえ、各専門領域のエキスパートによる厳しい査読も行われ、先輩、同僚、後輩などに読んでもらって批判を仰ぐという紀要本来の目的を達成してきた。また短期大学部から四年制へと発展したのと時を同じくして、若手研究者や卒業生などが紀要を踏み台として力をつけ、全国誌や国際誌へ投稿できるようになって、紀要から年報へと発展したと考えたい。

平成9年10月1日、念願であった四年制化が実現し、医学部保健学科として新しいスタートを切った。学部化構想ではなく医学部の一学科としてではあったが、見方を変えれば保健学科と医学科が医学・医療の車の両輪として医学部を構成するということであり、高齢化社会のなかでQOLを考えながら患者中心の医学・医療を行うという時代の流れにマッチしたものともいえる。両学科が協力し合い、競い合い、教育・研究の活力を高めていくことが必要であり、そのためにはそれぞれの伝統と良さを尊重し協調していくことと、相互理解の精神が基本となると考えられる。

21世紀を迎え、大学は自己評価から外部評価の時代に入り、自らが改革に取り組んでいくことが要求されている。日本の大学教員の大多数が常に研究業績をあげるというプレッシャーに耐えながら厳しい研究環境のなかで仕事を続けており、逆に教育者としての能力や資質の向上に対するプレッシャーは低いという外国とは正反対の結果が報告されている。今後は、教育そのものを向上させるための努力や評価が大学教員に問われることとなる。保健学科でもファカルティ・デベロップメントの一環として、教育に対する意識の改革に取り組んでいく必要がある。学年進行とともに教員の数も増え、多くの専門分野の、またその育ってきた環境やシステムをも異にする職種の人々から構成される保健学科では、教育とは何かを改めて考え直してみるよい時期を迎えている。教育に対する資質や能力を高め、しっかりした学部教育を行うことがよき後輩を育てることになり、それが仲間となって育ち、互いに刺激し合うことにより研究への活力も高まってくるものと考えられる。その積み重ねが修士課程や博士課程へと結実されるであろう。

次なる目標へ向かって、論文はより国際的な学術誌へ、この年報は教育・研究年報としての役割を發揮し、継続されていくことを期待している。

## 目 次

看護学専攻	3
放射線技術科学専攻	19
検査技術科学専攻	33
理学療法学専攻	45
作業療法学専攻	55

## 凡 例

◎業績の収録期間は平成9（1997）年1月～12月とした。

◎業績は下記の種別に分類し、原著論文に抄録のあるものは抄録を掲載した。

- \* 著書
- \* 原著論文
- \* 総説・解説・その他
- \* 科研費・班研究等
- \* その他の印刷物
- \* 学会
- \* 公開講座・講演会

◎ 掲載順位は ①専攻名、②論文種別、③著者のアルファベット順 とした。

**看護学専攻**

## 〔著書〕

友田 豊, **後藤節子**

絨毛性疾患・分類「婦人科がん治療学」(野田起一郎, 野澤志朗, 大川智彦編) pp. 254-263  
金原出版, 1997

鳥居新平, **石黒彩子**, 坂本龍雄

室内汚染物質への対応 「気管支喘息とQOL, 生活指導」(気管支喘息とその周辺IV)(宮本昭正編) pp. 47-54  
現代医療社, 1997

**永田量子**

心のこもった介護・どうしますあなたと私の老後ーホームヘルプサービスをめぐってー(児島美都子・地域福祉を考える会編) pp. 95-96  
ミネルヴァ書房, 1997

**中木高夫**

看護にとって いま がターニング・ポイントなのか? ; 日本における看護診断の受容「看護診断 本質に迫る 21 の論考」(看護を考える選集) pp. 47-55  
日本看護協会出版会, 1997

**中木高夫**

「あすかちゃんのあなたがやる看護管理」  
照林社, 1997

**中木高夫, 山本洋子, 野村千文, 安藤祥子, 大村いづみ, 杉浦太一, 堀容子, 本田育美, 鈴木和代, 水溪雅子, 堀文子, 内海みよ子, 稲葉早苗, 渡邊順子, 吾郷美奈江, 石黒彩子, 渡邊憲子** 訳

「クリティカルシンキング; 看護における思考能力の開発」(Rubenfeld, M.G. & Barbara, K.S. 著, 中木高夫, 石黒彩子, 水溪雅子監訳)  
南江堂, 1997

**鈴木和代**

産後の指導ーテキスト. ビデオと保健指導「タイムテーブルにもとづいた産後の保健指導マニュアル」 pp. 114-117  
メディカ出版, 1997

**渡邊憲子**

肺切除術を受ける患者の看護 「B. 急性期にある患者の看護Ⅱ 周手術期看護 (成人看護学)」 (氏家幸子監修, 泉キヨ子, 大森武子編) pp. 348-363  
廣川書店, 1997

## 〔原著論文〕

**安藤詳子, 渡邊憲子, 小野雄一郎, 竹内康浩, 谷口 元**

看護職員による病院環境に関する主観的評価—病棟看護婦の作業環境—

名古屋大学医療技術短期大学部紀要 9: 9-17, 1997

抄録： 著者らは、1994年、名古屋大学医学部附属病院について、看護職員の作業環境評価を調査した。本研究の目的は、よりよい環境整備をはかるための基礎資料を得るために、病棟看護婦の作業環境に関する主観的評価を調査することである。病棟看護職員367名に調査票を配布して、334(91.0%)を回収した。質問内容は、病室・廊下・ナースステーション等の22施設に関する作業環境(広さ、使い易さ、位置、安全性、騒音、換気、臭気、照明、冷房)である。全体的に病棟看護婦の各施設に対する看護作業環境評価の平均得点は低く、特に「広さ・使い易さ・換気」の評価が低かった。また、病棟別の看護婦の各施設に対する評価の違いを分析し、関連する要因を考察した。

**安藤詳子, 渡邊憲子, 渡邊順子, 水野 智, 小野雄一郎, 谷口 元**

入院患者による生活環境評価 — (その1) 設備品に関して—

病院管理 34(4): 43-48, 1997

Abstract: A questionnaire study was carried out on 425 (74.2%) of 573 patients in a university hospital in 1994. Inconvenience and lack of 14 kinds of equipment (beds, bedmats, stretchers, wheelchairs, drip infusion stands, bed-side tables, over-bed tables, lockers, clothing of patients and so on) were studied.

1) The proportions of the patients with complaints about the equipment were higher in younger group than in older group, and in females than in males.

2) Complaints about wheelchairs, drip infusion stands, comfortable pillows, and public telephones, were more frequently observed in long term hospitalized patients than in short term hospitalized patients.

3) Patients with serious disability had more prevalent complaints than those with milder disability with regard to the lack of public telephones, information boards, and lockers, and to the inconvenience in using beds and information boards.

4) Operated patients complained more frequently about a lack of drip infusion stands than non-operated patients.

湯浅英子, 柚原由紀子, 浅井亜紀子, 久納陽子, **後藤節子, 工藤ハツヨ**, 本田育美, **大村いづみ**

月経状況と月経随伴症状の関連について

母性衛生 38(2): 233-240, 1997

抄録： 本学女子看護学生および2年以内に本学を卒業した看護婦389名を対象に、調査用紙を用いて、月経状態と月経随伴症状の経日的変動について調べ、以下のような結果が得られた。1. 月経持続日数の異常群の方が、正常群より、月経随伴症状が現われやすく、特に下腹部痛・腹満感・貧血・集中力低下の訴えが多かった。症状の出現日数は約2日間長くなっていた。2. 最多月経血量出現日に、下腹部痛・腰痛・貧血・めまい・ゆううつ・集中力低下・易疲労感の訴えが多かった。3. 月経初日または2日目に凝血がある者は、下腹部痛・腰痛・貧血・めまい・易疲労感をその日に最も多く訴えた。4. 月経随伴症状を毎月訴える者に比べ、時々訴える者の方が、乳房痛・乳房の張り・便秘・下腹部痛・体重増加を多く訴え、一度に多数の随伴症状を経験していた。5. 月経周期の正常性、変動性については、顕著な差は、認められなかった。

以上より、月経随伴症状には、持続日数・月経血量・凝血・症状出現の規則性などが影響すると示唆された。

浅井亜紀子, 久納陽子, 湯浅英子, 柚原由紀子, **後藤節子, 工藤ハツヨ**, 本田育美, **大村いづみ**

「月経前」「月経前から月経期」「月経期」における月経随伴症状の分析

母性衛生 38(4) : 464-471, 1997

抄録: 本学在学中の女子学生, 及び 2 年以内に本学を卒業した看護婦に対し月経調査表を配布し, 月経随伴症状群に対するアンケート調査を行った。その結果, 「月経前」においては, 乳房症状・皮膚症状・水分代謝症状を示し, 「月経前から月経期」においては, 消化器症状・精神症状・疼痛症状を示し, 「月経期」においては, 疼痛症状・精神症状・血管神経症状が示された。月経期の各周期には, 複雑な内分泌機構の変調があり, それに伴い特徴的な月経随伴症状の出現が認められた。

### **飯田美代子, 森田せつ子**

疲労自覚症状とフリッカー値の推移からみた母親の疲労

愛知県母性衛生学会誌 15 : 63-67, 1997

抄録: 一事例であるが産褥 3 日目から産褥 4 ヶ月まで, 縦断的に疲労自覚症状とフリッカー値の測定をおこなった。自覚疲労症状の推移は, 分娩によって新たに加わった育児の負担が, 産褥初期においてどのように推移し, どの時期に負担が重いか, また, 何が主な要因となるかを検討した。

KANBE Toshio, UTSUNOMIYA Kumiko, **ISIGURO Ayako**

A crossreactivity at the immunoglobulin E level of the cell wall mannoproteins of *Candida albicans* with other pathogenic *Candida* and airborne yeast species.

Clinical and Experimental Allergy 27 : 1449-1457, 1997

Abstract: *Background* *Candida albicans* crossreacts with *Saccharomyces cerevisiae* or *Pityrosporum ovale* at the IgE level. However, the extent of crossreactivity of *C. albicans* with other yeast species is not known. *Objective* The crossreactivity at the immunoglobulin E (IgE) level of *Candida albicans* with other pathogenic *Candida* species and to the airborne yeast species *Cryptococcus* and *Rhodotorula* was studied by immunoblot analysis.

*Methods* Crude antigens, designated as heat extract, were prepared from 13 different yeast species and a dot blot test was performed to detect IgE antibodies against each of the heat extracts in 349 patients with allergies who were positive for IgE antibodies against *C. albicans* in a CAP system.

*Results* In the dot blot test, most of the sera reacted with the heat extracts of not only *C. albicans* but also those prepared from the other yeast species. The sera of 41 of the 349 patients (11.7%) reacted with the heat extracts of all 13 yeast species. The extent of the binding of IgE antibodies to multiple yeast species correlated with both the fluorescence intensities measured in the CAP system and the intensities of dots generated by the heat extract of *C. albicans* in the dot blot test. In an inhibition dot blot test, mannoproteins, but not proteins, of *C. albicans* strongly inhibited the subsequent binding of IgE antibodies to all yeast species.

*Conclusion* Our data suggest that the *C. albicans* mannoproteins are responsible for the crossreactivity among these yeast species at the IgE level.

林みどり, 小菌るみ子, 忠内亨恵, 土方千晴, 日高美紀, 溝田苗弓, 良井ゆりか, 渡邊美代子, **加藤芳枝, 森田せつ子**

### **子**

望ましい子守帯についての一考察 —子守帯の変遷と使用状況から—

愛知県母性衛生学会誌 15 : 33-43, 1997

抄録: 今回私たちは, 助産婦学生の立場から見て, 育児用品の中でも母子の愛着形成に効果があると思われる子守帯に着目し, その使用状況を調査した。

そこで, 20 代から 80 代の育児経験のある母親 182 名に対し, アンケート方式で回答を得た。

調査の結果、子守帯は現在も多くの育児中の母親によって使用されていることがわかった。

母子の愛着形成には前抱きタイプの子守帯を使用することが望ましく、使用率も高いと考えていたが、実際には、前抱き、後抱き、前後兼用、横抱きなど子守帯のタイプは目的によって使い分けされているという結果が得ら

れた。その中でも、後抱きでの使用率ももっとも高いという私たちの予測に反した結果となった。また、それぞれの子守帯に利点、欠点があるため、どのタイプが最も優れているとは言い切れないということがわかった。このことより、助産婦学生として子守帯に関する様々な情報を母親に提供し、適切な選択ができるように援助をしていく必要があると思われる。

河津雄介, **河津芳子**, 小島新平, 原口芳明, 村久保雅孝  
高等教育における体験学習—コルプの理論モデルを手がかりにして—  
名古屋聖霊短期大学紀要 17 : 15-25, 1997

石川祐子, 堀部雅子, 峯吉景子, 村上祐子, 吉田朋代, **森田せつ子**, **加藤芳枝**  
喫煙が乳児に及ぼす影響について両親および医療従事者の意識調査  
愛知母性衛生学会誌 15 : 15-22, 1997

抄録： 喫煙が妊婦に及ぼす影響はよく知られているが、育児期における両親の喫煙、それによる乳児の受動喫煙の害についてはあまり知られていない。そこで、今後の保健指導に役立てるため、両親の喫煙に対する意識と実態及び医療従事者の保健指導の現状について調査を行った。

対象は、4ヵ月児を持つ母親83名と、その夫78名、病院42施設である。方法は自記式の質問紙法を用いた。次のような結果が得られた。

- 1) 母親の喫煙率は妊娠中減少したが、産後に再び増加した。夫は妊娠中・産後とも変化がみられなかった。
- 2) 両親とも乳児の受動喫煙の影響を具体的に知っているものは少なかった。
- 3) 産後に乳児の受動喫煙に関する保健指導を、実際に行っている病院は少なかった。
- 4) 受動喫煙が乳児に及ぼす影響への関心度は母親・病院とも、高かった。

以上の結果より、今後は乳児における受動喫煙の有害性について、正しい知識を普及させていくことが必要であり、そのために医療従事者がそれらの正しい知識を得、中心となって保健指導を行うよう努めていかなければならない。

岡 順子, 尾崎さおり, 尾関史帆, 兼岩幸枝, 久世美紀, 竹内信恵, 半場文絵, **森田せつ子**, **加藤芳枝**  
少子化社会における多産家族の背景について  
愛知母性衛生学会誌 15 : 23-32, 1997

抄録： 一人の女性が生涯に産む平均の子供の数は、昨年1.43人で最低記録を更新したことが厚生省の発表により明らかにされた。その主な要因としては、結婚や子育てに伴う負担、家事・育児労働の機会費用の上昇、結婚しないことへの社会的圧力の減少等による未婚率の上昇等が考えられる。又、子育てに伴う負担、住宅事情等による夫婦の出生意欲の低下ということが挙げられている。このようにわが国は、少子化が急速に進んでいる。しかし、少子化社会のなかであっても、子供を多く産んでいる人もいる。そこで私たちは多産の人たちに着目し、多く産む人の背景や環境(家庭状況、地域社会、職場など)の特徴を明らかにするためアンケート調査を実施した。そこで私たちは3人以上子供をもつ家庭を多産群と定義し、1人もしくは2人の子供をもつ家庭をコントロール群として比較した。

今回の調査で私たちの予測と異なった結果がいくつか得られた。

この研究を基に少子化社会で何が必要とされているのかを再確認し、助産婦として介入できる今後のサポートのあり方について考察した。

塩見美幸, 杉浦太一, 大村いづみ, 石黒彩子

臨床実習における小児期アセスメントツールと看護診断の使用状況 —ツール導入 2 年目の変化と看護診断基礎教育の必要性—

日本小児看護研究学会誌 6(2) : 100-104, 1997

**SUZUKI Kazuyo**, KOBAYASHI Miya, KOBAYASHI Kunihiko, SHIRAIISHI Yosuke, **GOTO Setsuko**, HOSHINO Takeshi

Structural and functional change of blood vessel labyrinth in maturing placenta of mice.

Trophoblast Research 9 : 155-164, 1997

Abstract: The mouse placenta consists of fetal blood vessels, interpolating trophoblast cells and maternal blood spaces forming a labyrinth. It was observed that in contrast to the rapid growth of fetuses, the placentae maintained a constant size through pregnancy. The weight ratio of fetus/placenta was 30:1 at birth, about 5 times that in humans. To investigate the efficiency of the labyrinth in materno-fetal exchange in maturing placenta, we histologically examined the formation of the labyrinth as pregnancy advanced. In the late stage, fetal blood vessels and maternal blood spaces had fine, close-knit branches that formed a complex labyrinth, which may explain the efficient exchange of nutrients and wastes between fetus and mother. The maturation of mouse placenta is accompanied by the formation of a more complex labyrinth rather than on any increase in size.

**山本洋子, 野村千文, 渡邊順子, 中木高夫**

基礎看護教育における看護診断に関する研究—実習記録によるデータベースアセスメントの傾向—

看護診断 2(1) : 70-77, 1997

抄録: 学生が看護診断をつける過程で感じている困難さの要因を探索するために, 急性期と慢性期における成人看護学実習記録の看護診断アセスメント用紙を対象として, 学生がつけた看護診断と, 根拠とした診断指標を Carpenito の『看護診断ハンドブック』の診断ラベルと診断指標をコード化した枠組みに基づいて分類し, 調査分析した。その結果, 学生のつけた診断ラベルは, 《交換》, 《運動》, 《感情》の領域に集中していた。また, 1 個か 2 個の診断指標で決定されている診断が 8 割あった。根拠とした診断指標は, 主観的な情報から導かれる傾向がみられた。以上のことから, 情報収集能力としての面接技法とフィジカルアセスメント技法について教育の充実が重要であることが示唆された。

**山本洋子, 野村千文, 渡邊順子, 中木高夫**

基礎看護教育における看護診断に関する研究

名古屋大学医療技術短期大学部紀要 9 : 19-28, 1997

抄録: 看護の範囲を明確にし, 患者同有の問題を明確に示すため, 看護問題を正しく表現する専門用語として「看護診断」がある。しかし, 学生は看護診断をつける過程で困難を感じている。その要因を探索するために, 1994~1995 年度に成人看護学実習を行った学生を対象とし, Carpenito の『看護診断ハンドブック』の診断ラベルと診断指標・関連因子をコード化した枠組みにもとづいて, 実習記録の中から学生が決定した看護診断, 根拠とした診断指標・関連因子を分類し, 調査分析した。その結果, 学生の決定した診断ラベルは, 《交換》, 《運動》, 《感情》の領域に集中していた。また, 80%の診断は, 1 個か 2 個の診断指標を根拠に診断を決定されていた。根拠とした指標は, 客観的情報をもとにしたものよりも, 主観的情報をもとにしたものを根拠とする傾向がみられた。しかし, 1 年間の実習を通して, 診断を裏付ける情報が次第に統合され, 適切な情報を捉えられるようになっていったことが明らかになった。

**〔総説・解説・その他〕**

**飯田美代子**

在宅療養における日記の試み

健康文化振興財団紀要 19 : 9-11, 1997

**片岡秋子**

家族—妻からの告知—

Emergency nursing 10(12) : 79-82, 1997

**河津芳子**

看護歴聴取のための面接の技法

月刊ナーシング 17(5) : 28-30, 1997

**永田量子**

とっさの看護・介護（手当て）

シニア情報誌ぎんなん 21 : 16, 1997

**永田量子**

痴呆・ボケを他の言葉にかえませんか

シニア情報誌ぎんなん 22 : 16, 1997

**永田量子**

高齢者の在宅看護・介護—在宅看護の長所，問題点—

シニア情報誌ぎんなん 23 : 16, 1997

**中木高夫**

時代は看護診断から看護介入へ；看護介入分類にみる清潔ケア

月刊ナーシング 17(4) : 58-61, 1997

**中木高夫**

申し送り・看護記録・看護計画・看護のインフォームドコンセントの密接な関係

エキスパートナース 13(4) : 24-29, 1997

**中木高夫**

意図的な看護，アドリブの看護，そして〈いまここ〉での看護

エキスパートナース 13(10) : 28-31, 1997

**中木高夫**

アメリカにおける診療記録の改革をわたしたちの国にどう生かすか

エキスパートナース 13(13) : 10-17, 1997

### **中木高夫**

本当の意味で診療記録の効率化とはどのようなことなのだろうか？  
エキスパートナース 13(10) : 166-171, 1997

**中木高夫**, 秋山正子, 笹鹿美帆子, 森山美知子

座談会 : いま, なぜ“フィジカル・アセスメント”か?  
月刊ナーシング 17(5) : 8-13, 1997

畑尾正彦, **中木高夫**, 辻本好子

座談会 : POS とインフォームド・コンセントの切っても切れない関係  
エキスパートナース 13(7) : 42-45, 1997

**SUZUKI Kazuyo**, KOBAYASHI Miya, SHIRAIISHI Yosuke, **GOTO Setsuko**, KOBAYASHI Kunihiko

Extracellular in the developing placental of mice  
PLACENTA 18(8) : A12, 1997

### **渡邊順子**

フィジカルアセスメント百科 フィジカルアセスメントの進め方2 外表(皮膚, 爪, 体毛, 頭髪, 頭皮)  
月刊ナーシング 17(5) : 58-63, 1997

### **渡邊順子**

バリアはフリー?  
健康文化振興財団紀要 18 : 22-25, 1997

## **【科研費・班研究等】**

**石黒彩子**, 鳥居新平, **杉浦太一**

アレルギー疾患患児の環境整備  
木村看護教育振興財団・平成7年度看護研究助成事業看護研究集録 4 : 1-5, 1997

## **【その他の印刷物】**

小野雄一郎, **安藤祥子**, 蛭田秀一, 島岡みどり, 堀 文子, 山田 宏, 服部洋兒  
介護ベルトによる姿勢負担軽減効果の検討  
調査研究報告書(財団法人姿勢研究所) pp. 1-77, 1997

友田 豊, **後藤節子**

絨毛性疾患化学療法(第二次)研究  
第14回婦人科がん化学療法共同研究会記録集 pp. 34-41, 1997

福岡秀興, 飯田美代子

「病気・看病のための生活日記」  
森永乳業株式会社, 1997

大村いづみ, 高木靖文, 渡辺美樹, 永田量子, 倉科正徳

社会人入学者の入学, 学習および社会人特別選抜に関する調査研究  
医療技術短期大学部における社会人受け入れの準備のための調査研究 pp. 3-11, 1997

#### 〔学会発表〕

安藤詳子, 渡邊憲子, 水溪雅子, 石黒彩子

がん看護領域における専門性の開発について -米国を参考に- (抄録集 1 : 42, 1997)  
第1回日本看護研究学会東海地方会, 1997.3 (名古屋)

堀 文子, 内海みよ子, 安藤詳子, 渡邊憲子

起立介助模擬作業における発揮力の検討 (抄録集 1 : 30, 1997)  
第1回日本看護研究学会東海地方会, 1997.3 (名古屋)

小野雄一郎, 島岡みどり, 蛭田秀一, 安藤詳子, 堀 文子, 服部洋兒, 竹内康浩

保育所調理員の運動器障害 (産業衛生学雑誌 39 : S429, 1997)  
第70回日本産業衛生学会, 1997.4 (富山)

堀 文子, 安藤詳子, 小野雄一郎, 島岡みどり, 蛭田秀一, 山田 宏, 服部洋兒, 市原 学, 上島通浩, 竹内康浩

起立介助模擬作業における持ち上げ力の実験的研究 (産業衛生学雑誌 39 : S435, 1997)  
第70回日本産業衛生学会, 1997.4 (富山)

堀 文子, 内海みよ子, 安藤詳子, 渡邊憲子

起立介助模擬作業における持ち上げ力の違い (日本看護研究学会雑誌 20(3) : 154, 1997)  
第23回日本看護研究学会学術集会, 1997.7 (久留米)

安藤詳子

ターミナルケアにおける看護場面の現象学的考察 (日本がん看護学会誌 12 : 102, 1997)  
第12回日本がん看護学会学術集会, 1997.11 (札幌)

安藤詳子, 渡邊憲子, 堀 文子

病院看護職員の疲労の原因に関する研究 (日本看護科学会誌 17(2) : 284-285, 1997)  
第17回日本看護科学学会, 1997.12 (神戸)

ANDO Shoko, ONO Yuichiro, TAKEUCHI Yasuhiro, SHIBATA Eiji, ICHIHARA Gaku, KAMIJIMA Michirhiro,  
SHIMAOKA Midori, HIRUTA Shuichi, HARRORI Yoji, HORI Fumiko

Complaints of work load and musculoskeletal symptoms among hospital nurses. (Abstract p.26, 1997)  
3rd International Conference Occupational Health for Health Care Workers, 1997.6 (Edinburgh, UK)

ONO Yuichiro, HORI Fumiko, **ANDO Shoko**, HIRUTA Shuichi, SHIMAOKA Midori, YAMADA Hiroshi, HARRORI Yoji,

Simulated experimental study of transferring patient from sitting to standing positions. (Abstract p.27, 1997)  
3rd International Conference Occupational Health for Health Care Workers, 1997.6 (Edinburgh, UK)

**飯田美代子, 森田せつ子**

疲労自覚症状とフリッカー値の推移からみた母親の疲労  
第15回愛知県母性衛生学会, 1997.5 (名古屋)

**飯田美代子, 石黒彩子, 森田せつ子**

病気時の日記に関する一試案 (プログラム・抄録集 4:75, 1997)  
第5回日本家族看護学会学術集会, 1997.5 (名古屋)

藤井千恵, 巽あさみ, 鬼頭信子, 村瀬敏子, **石黒彩子**

心身障害児の家族ニードと看護職の役割—アンケート調査及び父兄交換会からの考察— (プログラム・抄録集 p.35, 1997)  
第4回日本家族看護学会学術集会, 1997.9 (名古屋)

**石黒彩子, 杉浦太一, 塩見美幸**

臨床実習前の事例学習 —白血病幼児の事例を提示して— (日本小児看護研究学会誌 6(1):140-141, 1997)  
第7回日本小児看護研究学会, 1997.7 (横浜)

**石黒彩子, 杉浦太一, 飯田美代子, 森田せつ子**

難治性気管支喘息患者の家庭環境調査と家族指導 (プログラム・抄録集 p.70, 1997)  
第4回日本家族看護学会学術集会, 1997.9 (名古屋)

**片岡秋子**

看護学生と患者との人間関係における危機の状況と教育的介入方法 (日本看護学教育学会誌 7(2):137, 1997)  
第7回日本看護学教育学会, 1997.8 (神戸)

林みどり, 小園るみ子, 忠内亨恵, 土方千晴, 日高美紀, 溝田苗弓, 良井ゆりか, 渡邊美代子, **加藤芳枝, 森田せつ子**

望ましい子守帯についての考察—子守帯の変遷と使用状況から  
第15回愛知県母性衛生学会, 1997.5 (名古屋)

**河津芳子**

看護教育の目的について 「看護人間学教室」の実践を手がかりに (発表要旨集録 pp.21-22, 1997)  
第8回教育目標・評価学会大会, 1997.10 (名古屋)

**河津芳子**

医療と看護の社会史と看護教育の目標 (発表要旨集録 p.13, 1997)  
第8回教育目標・評価学会大会, 1997.10 (名古屋)

**河津芳子**, 山本智子, 清水千佳子

患者の思いを理解する

第3回システム看護学会, 1997 (名古屋)

石川祐子, 堀部雅子, 峯吉景子, 村上祐子, 吉田朋代, **森田せつ子**, **加藤芳枝**

喫煙が乳児に及ぼす影響について両親および医療従事者の意識調査

第15回愛知県母性衛生学会, 1997.5 (名古屋)

岡 順子, 尾崎さおり, 尾関史帆, 兼岩幸枝, 久世美紀, 竹内信恵, 半場文絵, **森田せつ子**, **加藤芳枝**

少子化社会における多産家族の背景について

15回愛知県母性衛生学会, 1997.5 (名古屋)

**森田せつ子**, **飯田美代子**, 野田明子, 佐藤達子, 林静子, 富永トシ, 玉里八重子

妊娠期の睡眠の変化(1報)ー昼間中の眠気についての検討ー (抄録集 38:28, 1997)

第38回日本母性衛生学会, 1997.10 (鹿児島)

**野村千文**

臨地実習における看護のインフォームドコンセントの導入 (抄録集 p.22, 1997)

第1回日本看護研究学会東海地方会, 1997.1 (名古屋)

**大村いづみ**, **工藤ハツヨ**

看護学生の母性意識についての一考察 Self-esteemテスト, Y-G性格検査を用いて (日本助産学会誌 10(2):85-87, 1997)

第11回日本助産学会, 1997.3 (徳島)

**大村いづみ**, **水溪雅子**, **後藤節子**, 橋元 良, 真野寿雄, 岩田仲生, 太田龍朗

産褥期における抑うつ状態と血漿バイオプテリンの分析 (プログラム・講演抄録 p.198, 1997)

第19回日本生物学的精神医学会, 1997.3 (大阪)

**大村いづみ**, **工藤ハツヨ**

母性看護学実習における学生の気付きー参加観察法を通してー (日本看護研究学会雑誌 20(3):p.301, 1997)

第23回日本看護研究学会大会, 1997.7 (久留米)

**大村いづみ**, **後藤節子**, **水溪雅子**

分娩後数日間におけるZung抑うつ尺度と血漿バイオプテリン値 (母性衛生 38(3):312, 1997)

第38回日本母性衛生学会大会, 1997.10 (鹿児島)

**杉浦太一**, 塩見美幸, **大村いづみ**, **石黒彩子**

臨床実習における小児アセスメントツールと看護診断の使用状況ーツール導入2年目の変化と看護診断基礎教育の必要性ー (日本小児看護研究学会誌 6(1):138-139, 1997)

第7回日本小児看護研究学会, 1997.7 (横浜)

**杉浦太一, 大村いづみ, 山本洋子**

看護短大生の向社会的行動と影響因子 (プログラム・抄録集 p.45, 1997)  
第4回日本家族看護学会学術集会, 1997.9 (名古屋)

**鈴木和代, 小林身哉, 白石洋介, 後藤節子, 小林邦彦, 杉浦康夫**

マウス胎盤の成熟と組織構築の変化について (解剖学雑誌 72(4) : 377, 1997)  
第102回日本解剖学会, 1997.3 (名古屋)

**鈴木和代, 山田知子, 小木曾みよ子, 岩元美佐子**

マウスの分娩行動の観察 (日本助産学会誌 10(2) : 215-216, 1997)  
第11回日本助産学会, 1997.3 (徳島)

**鈴木和代, 小林身哉, 白石洋介, 本多たかし, 後藤節子, 小林邦彦, 杉浦康夫**

胎盤の構造的, 機能的成熟における細胞外マトリックス (ECM) の役割: 形態学的研究  
第4回日本胎盤研究会, 1997.11 (熊本)

**渡邊順子, 江藤真紀, 山本洋子, 野村千文**

寝たきり高齢者の末梢部における皮膚血流量と皮膚温の検討—褥瘡の有無との関連性— (日本看護研究学会雑誌 20(3) : 134, 1997)  
第23回日本看護研究学会, 1997.7 (久留米)

**江藤真紀, 渡邊順子, 久保田新**

高齢者の転倒に関わる身体・心理的要因とその性差 (日本看護研究学会雑誌 20(3) : 137, 1997)  
第23回日本看護研究学会, 1997.7 (久留米)

**渡邊順子, 江藤真紀, 野村千文, 山本洋子**

転倒経験のある高齢者の身体的要因—末梢循環動態を中心に— (日本看護科学学会誌 17(2) : 88-89, 1997)  
第17回日本看護科学学会, 1997.12 (神戸)

**山本洋子, 安藤祥子, 永田量子**

老人看護学実習で学生が学んだこと (抄録集 1 : 27, 1997)  
第1回日本看護研究学会東海地方会, 1997.3 (名古屋)

**山本洋子, 杉浦太一, 大村いづみ, 野村千文**

臨地実習における学生の家族看護観—初回実習を通して— (プログラム・抄録集 p.46, 1997)  
第4回日本家族看護学会学術集会, 1997.9 (名古屋)

**〔公開講座・講演会〕**

**後藤節子**

教育講演・絨毛性疾患化学療法の諸問題  
日本絨毛性疾患研究会, 1997.11 (熊本)

**飯田美代子**

分娩時の呼吸法

第4回愛知県・(財)母子衛生研究会, 1997.10 (豊田)

**片岡秋子**

救急看護—熱傷患者の看護—

大阪大学医学部保健学科, 1997.12 (吹田)

**河津芳子**

看護論

愛知県看護協会臨床指導者研修会, 1997.9 (名古屋)

**河津芳子**

看護観を育てる

愛知医科大学附属病院2年目研修, 1997.11 (愛知県長久手町)

**森田せつ子**

マタニティセミナー・安産な出産に向けて

第1回母子衛生研究会, 1997.7 (豊田)

**森田せつ子**

マタニティセミナー・安産な出産に向けて

第2回母子衛生研究会, 1997.10 (豊田)

**永田量子**

痴呆老人への接遇法について

日進市地域福祉を考える会介護講座, 1997.1 (日進)

**永田量子**

寝たきりにならないために

名古屋市東区婦人部会研修会, 1997.2 (名古屋)

**永田量子**

家族に介護を必要とする人がでたら

愛知県師勝保健所在宅看護教室, 1997.3 (愛知県師勝町)

**永田量子**

介護概論

めいきん牛協くらしたすけあいの会2級ヘルパー養成講座, 1997.5 (名古屋)

**永田量子**

在宅介護の心得

一宮市社会福祉協議会尾張地域福祉を考える会介護講座, 1997.5 (一宮)

**永田量子**

在宅看護方法論

めいきん生協くらししたすけあいの会 2 級ヘルパー養成講座, 1997.6 (名古屋)

**永田量子**

早期痴呆の方への理解と接し方について

名古屋市東区社会福祉協議会なごやかスタッフ研修会, 1997.6 (名古屋)

**永田量子**

介護技術・体位姿勢の変換

めいきん生協くらししたすけあいの会 2 級ヘルパー養成講座, 1997.6 (名古屋)

**永田量子**

緊急時の対応－看護法－

めいきん生協くらししたすけあいの会 2 級ヘルパー養成講座, 1997.6 (名古屋)

**永田量子**

療養者の生活範囲を広げる介護

めいきん生協くらししたすけあいの会 2 級ヘルパー養成講座, 1997.6 (名古屋)

**永田量子**

いざという時のための介護の知識

名古屋市名東区豊が丘コミュニティセンター・ピッピの会, 1997.7 (名古屋)

**永田量子**

痴呆性高齢者への対応

めいきん生協くらししたすけあいの会 2 級ヘルパー養成講座, 1997.7 (名古屋)

**永田量子**

高齢者の QOL を考えた介護法

愛知県高齢者共同組合愛知ヘルプ協会研修会, 1997.8 (名古屋)

**永田量子**

お年寄りのお世話－在宅での介護法－

愛知県高齢者共同組合愛知ヘルプ協会研修会, 1997.8 (名古屋)

**永田量子**

在宅療養者によるこばれる介護法

愛知県瀬戸保健所介護講座, 1997.9 (豊明)

**永田量子**

在宅介護最前線

東海北陸データベース懇話会, 1997.10 (名古屋)

**永田量子**

老人を介護する人の心の健康について  
愛知県瀬戸保健所主催豊明市民生委員研修会, 1997.10 (豊明)

**永田量子**

在宅看護論－在宅ケアの実際－  
愛知県看護教員養成講習会, 1997.11 (名古屋)

**永田量子**

在宅ケアを地域で考える  
愛知県看護教員養成講習会, 1997.12 (名古屋)

**永田量子**

在宅における寝たきり者・痴呆療養者の QOL について  
愛知県看護教員養成講習会, 1997.12 (名古屋)

**渡邊順子**

医師・薬剤師・看護婦からみた最近の褥瘡ケア－看護の立場から－  
Smith & Nephew 学術講演会, 1997.9 (名古屋)

# 放射線技術科学専攻

[原著論文]

**AOYAMA Takahiko, KOYAMA Shuji, TSUZAKA Masatoshi, MAEKOSHI Hisashi**

Development of a depth-dose measuring device using a scintillating fiber array detector for clinical electron beams  
KEK Proceedings 97(8) : 280-289, 1997

**AOYAMA Takahiko, KOYAMA Shuji, TSUZAKA Masatoshi, MAEKOSHI Hisashi**

A depth-dose measuring device using a multi-channel scintillating fiber array for electron beam therapy  
Medical Physics 24 : 1235-1239, 1997

Abstract: Development is described of a new depth-dose measuring device for electron beam therapy. The device employs plastic scintillating fiber detectors inserted in a PMMA phantom in line along an incident electron beam. Output photons from a fiber, the number of which photons is proportional to the absorbed dose at each depth of the phantom, were converted to an electric signal with a photodiode. Each signal from the photodiode was transmitted to a personal computer through a multi-channel AD converter, and it was processed to draw a depth-dose curve on the computer display. A depth-dose curve could be obtained in a measuring time of 5 sec for each incident electron beam with an energy range between 4 and 21 MeV. The mean electron energies estimated using the curves and the depth-scaling factor for PMMA were consistent with those obtained from conventional depth-dose measurements using an ion chamber and a water phantom. The newly developed system, being simple and not time consuming, would be used in routine for quality assurance purposes for electron beam therapy.

**KOYAMA Shuji, OBATA Yasunori, SHIMAMOTO Kazuhiro, ISHIGAKI Takeo, ISHII Naohiro, ISOMOTO Yukuo, YOSHINE Katsumi**

Breast Ultrasonography : Computer-Aided Diagnosis Using Fuzzy Inference  
Journal of Ultrasound in Medicine 16 : 665- 672, 1997

Abstract: On the basis of detailed analysis of ultrasonographic features in 105 breast masses (55 malignant, 50 benign), a computer-aided diagnostic system using fuzzy inference has been developed. Ultrasonographic features of a mass for the input data included shape, border, halo (boundary echoes), internal echoes, posterior echoes, and edge shadows (bilateral shadows). The probability of malignancy was described by an actual number ranging from 0.0 to 1.0. The algorithm of inference was constructed, and a sensitivity of 94.5% and specificity of 76.0% for cancer diagnosis were obtained.

**MAEDA Hisatoshi, FURUNE Sunao, NOMURA Kazushi, KITOU Osamu, ANDO Yoko, NEGORO Tamiko, WATANABE Kazuyoshi**

Decrease of N-acetylaspartate after ACTH therapy in patients with infantile spasms.  
Neuropediatrics 28 : 262-7, 1997

Abstract: Apparent brain atrophy has been frequently observed at CT and MRI after ACTH therapy in patients with infantile spasms. There are several hypotheses to explain ACTH-induced brain shrinkage: 1) a catabolic effect of ACTH on brain tissue, 2) a mineralocorticoid effect resulting in a loss of water and 3) an increase in cerebrospinal fluid (CSF) pressure compressing the brain.

An average of  $0.21 \pm 0.03$  mg/kg of ACTH was administered to nine patients over a period of 14 to 17 days. Water content and concentrations of N-acetylaspartate (NAA), creatine and phosphocreatine (Cr + PCr), and choline (Cho) were measured before, immediately after, and several months after the ACTH therapy by using *in-vivo*  $^1\text{H}$  magnetic resonance spectroscopy (MRS). Only NAA concentration exhibited a significant

change during the study ( $6.6 \pm 1.5$  mmol/kg,  $5.4 \pm 1.1$ , and  $7.0 \pm 1.5$ ,  $p=0.017$ ). There was no significant change in Cr + PCr, in Cho, or in water content. These data suggest catabolic effects of ACTH on brain tissue, such as cell loss, decrease in NAA synthesis in mitochondria, and leakage of NAA from cell membrane.

**MAEDA Hisatoshi**, HAYASHI Nobuyuki, TOYOOKA Nobuo, ANDO Yoko, ENDOH Shigeo, HAYASHI Ryuichi  
Submillimeter Pixel MR Images of Hepatic Cavernous Hemangiomas.

Radiation Medicine 15(1) : 17-22, 1997

Abstract: Several criteria have been used for differentiating hepatic cavernous hemangioma from other tumors at magnetic resonance imaging (MRI). Included are signal intensity and lobulation of the tumor. We counted the frequency of presence of lobulation of liver hemangiomas on  $T_2$ -weighted images (T2WI), and measured the signal-intensity ratio (SIR) on  $T_1$ -weighted images (T1WI) and on T2WI with a  $0.9 \text{ mm} \times 0.9 \text{ mm}$  pixel size using a 0.5 T magnetic resonance system.

Eighty-three cavernous hemangiomas in 44 patients and 67 malignant tumors in 44 patients were retrospectively studied. Seventy-five of the cavernous hemangiomas (90%) exhibited lobules of various sizes, and four of the malignant tumors (6%) exhibited lobulations. The cavernous hemangiomas had a significantly higher SIR than the malignant tumors on T2WI:  $3.0 \pm 0.7$  and  $1.9 \pm 0.8$  ( $p<0.001$ ), respectively.

The presence of lobulation together with a high SIR was a useful measure for differentiating cavernous hemangiomas from other liver tumors.

MATSUSHIMA Shigeru, SASAKI Fumio, UCHIYAMA Yukio, FUWA Nobukazu, ANDOH Manabu, **MAEDA Hisatoshi**, KINOSADA Yasuomi

Tissue characterization by magnetization transfer ratio -evaluation of the MTRs in breast tumors, globus pallidus, and nasopharyngeal tumors.

放射線物理 17(1) : 1-8, 1997

Abstract: Magnetization transfer ratios (MTRs) of tissues with different characteristics were investigated. Cross-relaxation rates of solutions with different protein concentrations were studied. We evaluated the MTRs of female breast tumors, the globus pallidus, and nasopharyngeal tumors, and assessed the usefulness of MTRs in determining tissue characteristics.

In phantom studies, we measured MTRs using gelatin and  $\text{MnCl}_2$  solution with various concentrations of gelatin and  $\text{MnCl}_2$ . MTRs were measured using pairs of images obtained by conventional SPGR sequence and MT-prepared SPGR sequence. MTRs, defined as the percentage of signal loss between unsaturated and saturated images, were calculated using the equation  $(M_0 - M_s)/M_0$ , where  $M_0$  is the measured signal intensity on the conventional SPGR images, and  $M_s$  is the measured signal intensity on the MT-prepared SPGR images. We investigated relationships between pathological findings and MTRs of breast tumors, between liver function and MTRs globus pallidus, and between the DNA index and MTRs of nasopharyngeal tumors. MTRs increased with increased gelatin concentration, but decreased as the  $\text{MnCl}_2$  concentration increased. MTRs of breast carcinoma were higher than those of benign tumors. MTRs of globus pallidus showed a correlation with liver function (ChE:  $r=0.79$ , PT:  $r=0.75$ , ICGR15:  $r=0.98$ ). MTRs of aneuploid nasopharyngeal tumors had high MTRs. MTR is a good indicator of protein concentration and could be a new and useful parameter for tissue characterization.

鷺津潤爾, 安藤容子, 服部龍夫, 小林陽一郎, 宮田完志, 深田伸二, 湯浅典博, 林 裕次, 江畑智希, 瀬古 浩, **前田尚利**

放射線治療と Expandable Metallic Stent により内瘻化した肝門部胆管癌の 1 例

癌の臨床 43(6) : 689-93, 1997

抄録：患者は、63歳、女性。閉塞性黄疸のため入院した。経皮経肝胆道ドレナージ後の造影で不整な肝門部胆管閉塞が認められ、面管造影や胆道鏡下生検の結果、切除不能肝門部胆管癌と診断した。肝門部に、外照射40 Gyを分割照射しつつ瘻孔を拡張し、<sup>60</sup>Coを線源とする remote after loading systemにより胆管腔内照射を21 Gy行った後、3本のexpandable metallic stent (EMS)を組み合わせて挿入・留置して全肝ドレナージを行った。患者は、ステント留置から15カ月を経て発熱・黄疸なく、胆道外瘻チューブのない状態で日常生活を営んでいる。切除不能肝門部胆管癌例では、黄疸や胆管炎の防止が重要であり、放射線治療とEMSにより内瘻化が得られれば良好な quality of life が期待できる。

**田伏勝義**, 伊藤 進, 砂倉瑞良, 加藤真吾, 中村 譲, 飯沼 武, 楮本智子, 荒居龍雄, **小幡康範**

膣浸潤を伴う子宮頸癌の至適腔内照射条件の計算法

日本医学放射線学会雑誌 57(13) : 871-876, 1997

抄録：Stage III carcinoma of the uterine cervix is occasionally accompanied by tumor infiltration of the vaginal wall. Currently, the vaginal wall has to be irradiated in the same manner as the uterine cervix. The authors have developed a system for determining the optimal irradiation conditions for treating the two regions, uterine cervix and vaginal wall, at the same time. A comparison of two methods is shown in simulation, and then a clinical case is reported. The first method consists of two treatment plans, one for the uterine cervix without tumor infiltration of the vaginal wall, and the other for the vaginal wall without carcinoma of the uterine cervix. The second, newly developed method considers the two regions together. Irradiation times of ovoid sources obtained with the second method are 15-25% less than those of the first method. Isodose curves obtained with the two methods are very different, and thus the uterine cervix and vaginal wall must be considered together in order to determine irradiation conditions.

KATO Hideki, **TSUZAKA Masatoshi**, **KOYAMA Shuji**, **MAEKOSHI Hisashi**, SUZUKI Shoichi, FUJII Shigehisa

Energy-dependent Responses of Cadmium-Telluride (CdTe) Detectors to X-ray Photon Beams.

Japanese Journal of Radiological Technology [Overseas Edition], 15(2) : 29-35, 1997

Abstract: The Cadmium-Telluride (CdTe) semiconductor, which can be used at normal temperatures without cooling, was recently developed for the measurement of X-ray spectra.

In this paper, we calculated the energy-dependent responses of CdTe semiconductor detectors to X-ray photon beams by means of the Monte Carlo simulation.

The CdTe semiconductor showed higher K-escape fractions and lower photo-peak efficiencies than the high-purity Germanium (HPGe) semiconductor that has generally been used for X-ray spectra measurements. Therefore, it is assumed that the output spectra measured by the CdTe detector are more distorted than those measured by the HPGe detector.

The X-ray spectra measured by CdTe semiconductor detectors must be corrected to account for the energy-dependent response of CdTe.

## 【総説・解説・その他】

西谷源展, 大釜 昇, 木村千明, **小山修司**, 近藤康雄, 坂本弘巳, 春原信雄, 藤本信久, 松谷 正

診断領域X線の照射線量測定精度標準化に関する第2回全国調査結果の報告

日本放射線技術学会計測分科会誌 5(2) : 11-15, 1997

### **小山修司**

ヘリカルスキャンの被曝

INNERVISION 12(12) : 87-89, 1997

紀ノ定保臣, 松島 秀, 久保 均, **前田尚利**

Fast Spin Echo 法の定量性に関する基礎的検討—magnetization transfer 効果がもたらす画像の複雑さ  
日獨医報 42(1) : 7-18, 1997

**前越 久**, **小山修司**, **津坂昌利**, **成田憲彦**, 安部哲太郎, 近藤智昭, 早川紀和, 山口 宏

電離箱線量計がなくても乳房撮影時の被ばく線量はこうして測れる

Film Badge News 246 : 6-12, 1997

### **前越 久**

医療被曝と職業被曝

健康文化振興財団紀要 18 : 34-37, 1997

### **前越 久**

トラブル続きの留学一人旅 渡航初日編

健康文化振興財団紀要 19 : 16-18, 1997

**前越 久**, 木村千明, **小山修司**, 坂本弘巳, 砂屋敷忠, 春原信雄, **津坂昌利**, 西谷源展, 増田一孝, 松谷 忠

乳房撮影領域X線の照射線量測定精度標準化に関する全国調査

日本放射線技術学会雑誌 53(3) : 394-397, 1997

**前越 久**, **小山修司**, **津坂昌利**, **成田憲彦**, 高橋英智, 安部哲太郎, 近藤智昭, 早川紀和, 山口 宏

線量計がなくても乳房撮影時の被ばく線量はこうして測れる (Part 2)

Film Badge News 252 : 1-4, 1997

### **津坂昌利**

インターネット活用術

日本放射線技術学会雑誌 53(7) : 1051-1056, 1997

### **津坂昌利**

医療におけるマルチメディアおよびインターネットの動向

INNERVISION 12(3) : 34-39, 1997

**津坂昌利**, 水島 洋

医療機関専用ネットワーク : MDX (Medical Internet Exchange) 病院は如何にインターネットにつなげればよいか

INNERVISION 12(12) : 18-24, 1997

市橋卓司, 江本 豊, 辻村善樹, 高橋正樹, 古賀佑彦, 伊藤 渉, 長嶋宏和, 清宮麻希子, **津坂昌利**

インターネット入門 (10) : ホームページの作り方

臨床放射線 42(1) : 191-192, 1997

高橋正樹, 江本 豊, 辻村善樹, 古賀佑彦, 伊藤 渉, 長嶋宏和, 清宮麻希子, 市橋卓司, **津坂昌利**  
インターネット入門 (11) : WWWを用いた teaching file の作り方 (その1)  
臨床放射線 42(2) : 233-234, 1997

高橋正樹, 江本 豊, 辻村善樹, 古賀佑彦, 伊藤 渉, 長嶋宏和, 清宮麻希子, 市橋卓司, **津坂昌利**  
インターネット入門 (12) : WWWを用いた teaching file の作り方 (その2)  
臨床放射線 42(3) : 347-348, 1997

江本 豊, 高橋正樹, 辻村善樹, 古賀佑彦, 伊藤 渉, 長嶋宏和, 清宮麻希子, 市橋卓司, **津坂昌利**  
インターネット入門 (13) : WWWを用いた teaching file の作り方 (その3)  
臨床放射線 42(4) : 461-462, 1997

**津坂昌利**, 伊藤 渉, 市橋卓司, 長嶋宏和, 江本 豊, 清宮麻希子, 辻村善樹, 高橋正樹, 古賀佑彦  
インターネット入門 (14) : インターネットへの接続法 (その1)  
臨床放射線 42(5) : 609-610, 1997

**津坂昌利**, 伊藤 渉, 市橋卓司, 長嶋宏和, 江本 豊, 清宮麻希子, 辻村善樹, 高橋正樹, 古賀佑彦  
インターネット入門 (15) : インターネットへの接続法 (その2)  
臨床放射線 42(6) : 717-718, 1997

**津坂昌利**, 伊藤 渉, 市橋卓司, 長嶋宏和, 江本 豊, 清宮麻希子, 辻村善樹, 高橋正樹, 古賀佑彦  
インターネット入門 (16) : インターネットと WWW サーバーの接続  
臨床放射線 42(7) : 811-812, 1997

**津坂昌利**, 伊藤 渉, 市橋卓司, 長嶋宏和, 江本 豊, 清宮麻希子, 辻村善樹, 高橋正樹, 古賀佑彦  
インターネット入門 (17) : インターネットとイントラネット  
臨床放射線 42(8) : 935-936, 1997

江本 豊, 高橋正樹, 辻村善樹, 古賀佑彦, 伊藤 渉, 長嶋宏和, 清宮麻希子, 市橋卓司, **津坂昌利**  
インターネット入門 (18) : ドメインについて(その1)  
臨床放射線 42(9) : 1061-1062, 1997

江本 豊, 高橋正樹, 辻村善樹, 古賀佑彦, 伊藤 渉, 長嶋宏和, 清宮麻希子, 市橋卓司, **津坂昌利**  
インターネット入門 (19) : IP アドレスとドメインネームサービス  
臨床放射線 42(10) : 1149-1150, 1997

**津坂昌利**, 市橋卓司, 長嶋宏和, 江本 豊, 辻村善樹, 高橋正樹, 古賀佑彦  
インターネット入門 (20) : 日本のインターネットの現状と医療機関専用のネットワーク (その1)  
臨床放射線 42(12) : 1611-1612, 1997

**津坂昌利**, 市橋卓司, 長嶋宏和, 江本 豊, 辻村善樹, 高橋正樹, 古賀佑彦  
インターネット入門 (21) : 日本のインターネットの現状と医療機関専用のネットワーク (その2)  
臨床放射線 42(13) : 1715-1716, 1997

## 〔科研費・班研究等〕

### 青山隆彦

治療用電子線のエネルギーおよび生体等価物質中吸収線量分布直読装置の研究開発  
平成7年度～平成8年度科学研究費補助金研究成果報告書 1冊 1997

## 〔その他の印刷物〕

### 前越 久, 小山修司, 倉科正徳

社会人入学者の入試成績と各職域における適応度の調査  
医療技術短期大学部における社会人受け入れの準備のための調査研究 pp. 27-31, 1997

## 〔学会発表〕

### 青山隆彦, 小山修司, 前越 久

小照射野測定用微小シンチレーター・光ファイバー線量計の試作 (予稿集: 日本放射線技術学会雑誌 53: 1420, 1997; 抄録集: 日本放射線技術学会雑誌 54: 62, 1998)  
第25回日本放射線技術学会秋季学術大会, 1997.10 (奈良)

### 青山隆彦, 小山修司, 津坂昌利, 前越 久

シンチレーションファイバー検出器アレイを用いる医療用電子線の深部吸収線量分布計測システムの開発 (要旨論文集: pp. 69-70, 1997)  
第11回高エネルギー物理学研究所「放射線検出器とその応用」研究会, 1997.2 (つくば)

鈴木昇一, 小山修司, 岡田富貴夫, 安田英明, 西村廣一, 古市 齊, 照屋幸次, 長屋重幸  
X線CTにおける患者被曝の現状 (日本放射線技術学会東海支部会誌 10(1): 108-109, 1997)  
第18回日本放射線技術学会東海支部地方会, 1997.2 (名古屋)

小山修司, 田宮 正, 前越 久, 津坂昌利, 成田憲彦, 田伏勝義, 越智 学, 谷岡延光, 横山貢治  
人体等価胸部ファントムによるX線CTの被曝線量評価 (日本放射線技術学会東海支部会誌 10(1): 110-111, 1997)  
第18回日本放射線技術学会東海支部地方会, 1997.12 (名古屋)

磯村高之, 遠藤登喜子, 広藤喜章, 加藤力雄, 伊藤茂樹, 小山修司, 津坂昌利, 前越 久  
CT-fluoroscopyにおける術者の被曝線量評価  
第2回日本医学放射線学会中部地方会, 1997.2 (名古屋)

鈴木昇一, 小山修司, 岡田富貴夫, 鶴田初男, 西村廣一, 古市 齊, 長屋重幸, 照屋幸次, 片岡純也  
CT検査における患者被曝の研究 (日本放射線技術学会雑誌 53: 1260, 1997)  
第53回日本放射線技術学会, 1997.4 (横浜)

**小山修司, 青山隆彦, 前越 久, 津坂昌利, 田宮 正, 成田憲彦**

シンチレーションファイバ線量計を用いた X 線 CT の被曝線量評価 (日本放射線技術学会雑誌 53 : 1244, 1997)  
第 53 回日本放射線技術学会, 1997. 4 (横浜)

**小山修司, 前越 久, 津坂昌利, 成田憲彦, 田宮 正, 田伏勝義, 安部哲太郎, 近藤智昭, 早川紀和, 山口 宏**

乳房撮影時の被曝線量評価法の検討 (日本放射線技術学会東海支部会誌 10(2) : 40-41, 1997)  
第 19 回日本放射線技術学会東海支部地方会, 1997. 6 (浜松)

服部真澄, 棚田信春, 酒井 功, **小山修司**

Virtual CT Endoscopy における stair-step artifact の現れ方について-Y 字型の中空アクリルファントムを使って-  
(日本放射線技術学会東海支部会誌 10(2) : 74-75, 1997)

第 19 回日本放射線技術学会東海支部地方会, 1997. 6 (浜松)

**小山修司, 前越 久, 成田憲彦, 津坂昌利, 田宮 正, 田伏勝義, 高橋英智, 安部哲太郎, 近藤智昭, 早川紀和, 山口 宏**

乳房撮影時の患者被曝線量評価法の検討 その 3 -乳房等価材料の PDD について- (日本放射線技術学会東海支部会誌 10(2) : 116-117, 1997)

第 32 回日本放射線技術学会中部部会, 1997. 10 (大垣)

**小山修司, 田伏勝義, 前越 久, 田宮 正, 津坂昌利, 成田憲彦**

放射線診療施設における電磁場強度の測定 (日本放射線技術学会東海支部会誌 10(2) : 130-131, 1997)

第 32 回日本放射線技術学会中部部会, 1997. 10 (大垣)

**小山修司, 青山隆彦, 前越 久, 津坂昌利, 田宮 正, 成田憲彦**

螺旋軌道 X 線 CT の被曝線量測定 (検出部の長いシンチレーションファイバ線量計の試作) (日本放射線技術学会誌 54 : 143, 1998)

第 25 回日本放射線技術学会秋期学術大会, 1997. 11 (奈良)

澤木明子, 島本佳寿広, 石垣武男, **小山修司, 小幡康範, 池田 充**

ファジィ推論を用いた乳腺超音波診断支援システムの臨床評価

第 3 回日本超音波医学会・体表臓器の超音波所見の定量的評価に関する研究部会, 1997. 12 (名古屋)

**前越 久**

放射線計測学体験学習論

第 53 回日本放射線技術学会総会, 1997. 4 (横浜)

**前越 久**

診断領域 X 線に線量標準化

第 15 回日本医学物理学会, 1997. 7 (つくば)

**前越 久, 小山修司, 津坂昌利, 成田憲彦, 田宮 正, 田伏勝義, 安部哲太郎, 近藤智昭, 早川紀和, 山口 宏**

マンモグラフィの被曝線量評価法の検討

第 15 回日本医学物理学会, 1997. 7 (つくば)

**成田憲彦, 津坂昌利, 小山修司, 田宮 正, 前越 久**

ハイドロキシアパタイトを主成分とした骨塩量測定用標準ファントムの試作 (日本放射線技術学会東海支部会誌 9 (2) : 98-99, 1997)

第 31 回日本放射線技術学会中部部会, 1997.1 (富山)

**成田憲彦, 津坂昌利, 青山隆彦, 小山修司, 田宮 正, 前越 久**

骨密度測定用ファントムの医用材料学的検討 (日本放射線技術学会誌 53(8) : 1306, 1997)

第 53 回日本放射線技術学会, 1997.4 (横浜)

**成田憲彦, 津坂昌利, 青山隆彦, 小山修司, 田宮 正, 前越 久**

骨密度測定用ファントムの医用材料学的検討—第二報: X線スペクトル学的考察— (日本放射線技術学会東海支部会誌 10(2) : 56-57, 1997)

第 19 回日本放射線技術学会東海支部会, 1997.6 (静岡)

**成田憲彦, 田伏勝義, 小山修司, 青山隆彦, 津坂昌利, 田宮 正, 前越 久**

骨密度測定装置による被曝線量評価法—その2 デュアルビームの平均実効エネルギーについて— (日本放射線技術学会東海支部会誌 10(2) : 110-111, 1997)

第 32 回日本放射線技術学会中部部会, 1997.10 (大垣)

**田伏勝義, 田宮 正, 小山修司, 津坂昌利, 成田憲彦, 前越 久, 西野正成, 近藤 悟, 青山裕一, 本間光彦, 山口宏**

蛍光ガラス線量計による漏洩中性子線の測定 (東海支部地方会誌 10(1) : 102-103, 1997)

第 18 回日本放射線技術学会東海支部地方会, 1997.2 (名古屋)

中村 譲, **田伏勝義**, 古川重夫, 中野隆史, 坂下邦雄, 川村耕二, 榎戸義浩, 砂倉瑞良, 清水弥生

子宮頸癌ラルス最適化治療システムの改良 (日本医学放射線学会雑誌 57 : 819, 1997)

第 73 回日本医学放射線物理学会大会, 1997.4 (横浜)

中村 譲, **田伏勝義**, 中野隆史, 石居隆義, 坂下邦雄, 榎戸義浩, 渡辺哲也, 加藤真吾, 楮本智子, 砂倉瑞良

子宮頸癌ラルス腔内照射の最適化と問題点 (日本医学放射線学会雑誌 58 : 170, 1997)

第 74 回日本医学放射線物理学会大会, 1997.9 (新潟)

**田伏勝義, 田宮 正, 成田憲彦, 小山修司, 津坂昌利, 小幡康範, 前越 久**

蛍光ガラス線量計による骨密度測定時の被曝線量の測定 (日本医学放射線学会雑誌 58 : 171, 1997)

第 74 回日本医学放射線物理学会大会, 1997.9 (新潟)

**田宮 正, 田伏勝義, 小山修司, 津坂昌利, 成田憲彦, 前越 久**

ガラス線量計の特性 第二報 (散乱X線レスポンス) (日本放射線技術学会雑誌 53(7) : 874, 1997)

第 53 回日本放射線技術学会総会, 1997.4 (横浜)

小林香緒利, **津坂昌利, 小山修司**

高齢者の股関節撮影における介助者の被曝について (東海支部会誌 10(1) : 100-101, 1997)

第 18 回日本放射線技術学会 東海支部地方会, 1997.2 (名古屋)

古井千晴, 澤田道人, 柘植達矢, 小田耕司, 小菅桂子, **津坂昌利**, **小山修司**

Non-invasive 型 X 線アナライザーによる乳房撮影装置の半価層実効エネルギーの管理 (東海支部会誌 10(2) : 42-43, 1997)

第 19 回日本放射線技術学会東海支部地方会, 1997.6 (浜松)

澤田道人, 加藤秀起, **津坂昌利**

スリット法による MTF 測定 (増感紙, フィルム系) での管電圧依存性 (東海支部会誌 10(2) : 54-55, 1997)

第 19 回日本放射線技術学会東海支部地方会, 1997.6 (浜松)

長嶋宏和, **津坂昌利**

藤田学園医学情報インフラ構築について (東海支部会誌 10(2) : 68-69, 1997)

第 19 回日本放射線技術学会東海支部地方会, 1997.6 (浜松)

**津坂昌利**, **小山修司**, **成田憲彦**, **青山隆彦**, **田宮 正**, **田伏勝義**, **前越 久**, **小幡康範**

学生生活環境におけるインターネットの整備とその活用について (東海支部会誌 10(2) : 72-73, 1997)

第 19 回 : 日本放射線技術学会東海支部地方会, 1997.6 (浜松)

**津坂昌利**

シンポジウム : わかった気になるインターネットー電子情報展示で取入れた新しいネットワーク技術と放射線部門への応用についてー (日本医学放射線学会雑誌 57(10) : S286, 1997)

第 33 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 1997.10 (奈良)

**津坂昌利**, **小山修司**, 中野 智, 加藤秀起, **田伏勝義**, **小幡康範**, **成田憲彦**, **田宮 正**, **前越 久**

90 度方向散乱線スペクトルより計算した一次 X 線スペクトルの検討 (東海支部会誌 10(2), 1997)

日本放射線技術学会中部部会, 1997.10 (大垣)

加藤秀起, **津坂昌利**, **小山修司**, **前越 久**

実測 X 線スペクトルのアンフォールディング法による補正 (東海支部会誌 10(2), 1997)

日本放射線技術学会中部部会, 1997.10 (大垣)

柘植達矢, 澤田道人, 加藤秀起, **津坂昌利**

スリット法による MTF 測定での管電圧依存性について 1. Calcium Tungstate Screen と Rare-earth screen の比較 (東海支部会誌 10(2), 1997)

日本放射線技術学会中部部会, 1997.10 (大垣)

澤田道人, 柘植達矢, 加藤秀起, **津坂昌利**

スリット法による MTF 測定での管電圧依存性について 2. Fractional energy conversion to K X-rays in Gd2O2s (東海支部会誌 10(2), 1997)

日本放射線技術学会中部部会, 1997.10 (大垣)

## 〔公開講座・講演会〕

### 小山修司

CT 被ばく線量測定技術の実際

第 3 回日本放射線技術学会東海支部放射線防護研究班教育講演会, 1997.5 (四日市)

### 小山修司

ヘリカルスキャンの被ばく

第 1 回全国 X 線 CT 技術サミット, 1997.8 (名古屋)

### 小山修司

診断領域 X 線のエネルギー測定法 1. エネルギー測定の必要性

第 10 回日本放射線技術学会計測分科会討論会, 1997.11 (奈良)

### 小山修司

低エネルギー X 線領域の線量測定と問題点

第 24 回放射線治療研究会, 1997.11 (福岡)

### 前越 久

医療被曝とは何か 外部被曝 - 計る (日本放射線技術学会放射線防護分科会誌 5: 9-10, 1997)

第 5 回日本放射線技術学会放射線防護分科会, 1997.10 (奈良)

### 前越 久

医療被曝の標準測定法を考える

第 4 回保健物理フォーラム in 中部, 1997.2 (名古屋)

### 前越 久

密封 RI の安全取扱の要点

第 9 回日本原子力産業会議・中部原子力懇談会教育訓練講習会, 1997.5 (名古屋)

### 前越 久

医療における被曝線量と測定法の実際

静岡県放射線技師会研修会, 1997.10 (静岡)

### 津坂昌利

医療従事者のための Macintosh PowerBook と 32K PHS PIAFS を用いたモバイル環境でのインターネット利用について

医系教職員・学生のためのコンピュータ活用セミナー, 1997.7 (名古屋)

### 津坂昌利

インターネットと画像ネットワークに関する理解と最近の動向について

愛知県放射線技師会西三地区会講演会, 1997.9 (安城)

**津坂昌利**

インターネット概要とその使い方 (プログラム p.294, 1997)

第45回日本心臓病学会学術集会, 1997.9 (札幌)

**津坂昌利, 辻村善樹**

パソコンによる学会スライド作成のコツ (プログラム p.294, 1997)

日本心臓病学会学術集会, 1997.9 (札幌)

**津坂昌利, 長嶋宏和**

インターネットへのつなぎ方 (プログラム p.294, 1997)

日本心臓病学会学術集会, 1997.9 (札幌)

**津坂昌利**

ノンリニアビデオ編集システムによる医学ビデオ編集 (プログラム p.294, 1997)

日本心臓病学会学術集会, 1997.9 (札幌)

**津坂昌利, 長嶋宏和**

32K PHS モバイル通信によるインターネットへのつなぎ方 (プログラム p.294, 1997)

日本心臓病学会学術集会, 1997.9 (札幌)

江本 豊, **津坂昌利**

WWW でアクセスする医療情報 (プログラム p.294, 1997)

日本心臓病学会学術集会, 1997.9 (札幌)

## 検査技術科学専攻

## 【著書】

### 古池保雄

自律神経系「テキスト医学生物学」(太田美智男編) pp. 235-238  
名古屋大学出版会, 1997

### 長瀬文彦

免疫学「インドへの医療協力: 名古屋大学とサンジャイ・ガンジー医科学研究所の交流」(加藤延夫, 石垣武男, 林博史, 鈴木善男編) pp. 136-138  
名古屋大学出版会, 1997

### 横田充弘, 野田明子

Sleep apnea syndrome における循環動態 「Annual Review 循環器」(杉本恒明ほか編) pp. 83-89  
中外医学社, 1997

## 【原著論文】

YAGI Tetsuya, KUROKAWA Hiroshi, SENDA Kazuyoshi, ICHIYAMA Satoshi, **ITO Hideo**, OHSUKA Shinji, SHIBAYAMA Keigo, SHIMOKATA Kaoru, KATO Nobuo, OHTA Michio, ARAKAWA Yoshichika  
Nosocomial Spread of Cephem-Resistant *Escherichia coli* Strains Carrying Multiple Toho-1-Like  $\beta$ -Lactamase Genes.

Antimicrobial Agents and Chemotherapy 41(12): 2606-2611, 1997

Abstract: *Escherichia coli* HKY56, which demonstrated resistance to various  $\beta$ -lactams except carbapenems, was isolated from the throat swab of an inpatient in 1994. Conjugal transfer of cephem resistance from HKY56 to *E. coli* CSH2 was not successful. three cefotaxime-resistant *E. coli* clones harboring plasmid pMRE001, pMRE002, or pMRE003, each of which carried a 3.4-, 5.8-, or 6.2-kb *EcoRI* fragment insert, respectively, were obtained from HKY56. Although restriction analysis suggested their different origins, these clones showed similar profiles of resistance to various  $\beta$ -lactams. The sequence of 10 amino acid residues at the N terminus of  $\beta$ -lactamase purified from *E. coli* HB101 (pMRE001) was identical to that of Toho-1. This Toho-1-like  $\beta$ -lactamase-1 (TLB-1) was able to hydrolyze cefoperazone and cefotaxime efficiently, but it failed to hydrolyze cephamycins. A Toho-1-specific DNA probe was hybridized with three distinct *EcoRI* fragments derived from the chromosomal DNA of strain EXY56, and these fragments corresponded to DNA inserts carried by pMRE001, pMRE002, and pMRE003, respectively. PCR and Southern hybridization analysis suggested that all six cephem-resistant *E. coli* strains, strains HKY273, HXY285, HXY288, HKY305, HKY316, and HKY335, which were isolated in 1996 at the same hospital where strain HXY56 had been isolated, also possessed multiple Toho-1-like  $\beta$ -lactamase (TLB) genes, and the hybridization patterns obtained with the Toho-1-specific probe were quite similar among these six isolates. The DNA fingerprinting patterns observed by pulsed-field gel electrophoresis revealed that among the *E. coli* isolated, all isolates except HKY56 possessed a similar genetic background. These findings suggested that *E. coli* strains that carry chromosomally multiplied TLB genes may have been proliferating and transmitted among patients in the same hospital.

**KOIKE Yasuo**, TAKAHASHI Akira

Autonomic dysfunction in Parkinson's disease.

European Neurology: 38(suppl.2) : 8-12, 1997

Abstract: This article is a review of autonomic dysfunction in idiopathic Parkinson's disease (iPD), as well as the clinical features of a specific form of PD, i. e. autonomic failure (AF) with PD, and is based mainly on the results obtained from our recent studies. Since James Parkinson's original description, the definition of autonomic dysfunctions in iPD and their clinical characteristics have undergone changes. Autonomic dysfunction is considered to be uncommon and rarely severe on one hand, while not infrequent but not as severe as in Shy-Drager syndrome on the other hand. AF with PD is characterized by severe orthostatic hypotension, postprandial hypotension, supersensitivity to noradrenaline, low or absent uptake of m-<sup>123</sup>I-iodobenzylguanidine scintigraphy of the limbs, and preserved arginine vasopressin response to head-up tilt, suggesting a postganglionic sympathetic lesion resembling pure AF (PAF). On the other hand, reduced cortical glucose metabolism in positron emission tomography study may indicate that AF with PD has diffuse nervous system lesions resembling diffuse Lewy body disease.

YAMASHITA Akiko, **KOIKE Yasuo**, TAKAHASHI Akira, HIRAYAMA Masaaki, MURAKAMI Nobuyuki, SOBUE Gen

Relationship between respiratory failure and plasma noradrenaline level in amyotrophic lateral sclerosis.

Clinical Autonomic Research 7 : 173-177, 1997

Abstract: We evaluated plasma noradrenaline (NA) levels at-rest and during head-up tilt in 20 patients with sporadic amyotrophic lateral sclerosis (ALS). Their fasting plasma NA levels ranged from 195 to 4227 pg/ml. The average plasma NA level was 483 pg/ml in five ambulatory patients, 341 in two wheelchair-bound patients, 1264 in 11 bedridden patients, and 208 in two respirator-dependent patients whose disability grading was the worst among the four groups. Arterial carbon dioxide (PCO<sub>2</sub>) was evaluated as a measure of respiratory function. The coefficient of correlation between PCO<sub>2</sub> and plasma NA was  $r = 0.654$  ( $p < 0.01$ ). Either respiratory failure or lower motor neuron dysfunction may relate to the elevation of plasma NA levels. In the two bedridden patients, plasma NA levels and heart rate at rest increased significantly as the disease progressed. Cardiovascular responses to head-up tilting were normal. These data suggest that the elevation of plasma NA levels may be related to progression of respiratory failure and lower motor neuron dysfunction. In conclusion, sympathetic hyperactivity in ALS is considered to be not primary, but secondary to somatic motor disabilities and respiratory failure.

川上 治, 宝珠山稔, 平山正昭, **古池保雄**, 祖父江元

パーキンソン病および進行性核上麻痺における連合運動障害

臨床脳波 39 : 446-449, 1997

落合 淳, 丹羽央佳, **古池保雄**, 茂木禧昌

短潜時 SEP で異常を呈した band heterotopia (double cortex syndrome).

神経内科 47 : 604-606, 1997

抄録: We report a case of band heterotopia presenting abnormal SEP. She had first epileptic attack at age four and developed mental retardation. Cranial MRI revealed abnormal gray matter below cortical gray matter. Neurological examination showed no sensory abnormality. Left median nerve stimulated SEP showed lack of N20. In band heterotopia, cortex lacks the fifth and sixth layers morphologically. Abnormal SEP may relate to abnormal cortical structure.

阿部祐士, 白水重尚, 高橋 昭, 安藤哲朗, 柳 努, 長谷川康博, 古池保雄

Acute cholinergic dysautonomia 2例における<sup>123</sup>I-MIBG心筋シンチグラフィの検討  
自律神経 34: 432-436, 1997

抄録: Acute cholinergic dysautonomia 2例に *meta*-[<sup>123</sup>I]iodobenzylguanidine (<sup>123</sup>I-MIBG)心筋シンチグラフィを施行した。症例1は17歳, 女性。全身発汗低下, 麻痺性イレウス, 尿閉, CV<sub>T-T</sub>の低下を認めた。症例2は38歳, 女性。29歳の発症時には麻痺性イレウス, 緊張性瞳孔, 全身発汗消失を認め, CV<sub>T-T</sub>は低下していた。約9年経過した現在も, 軽度の緊張性瞳孔と6カ月に1~2回の麻痺性イレウスを起こしている。2例とも起立性低血圧はなく, コリン作動性の自律神経障害のみを認めた。症例1, 症例2ともに<sup>123</sup>I-MIBGの心筋への取込みは正常であった。ノルエピネフリンのアナログであるMIBGの集積機序から考察すると, cholinergic dysautonomiaでは, MIBGが心筋へ正常に取り込まれることが推察され, 今回の結果で確認された。一方, アドレナリンおよびコリン作動系の両者が広範に障害される *pandysautonomia* においては, MIBGの集積が欠如することから, <sup>123</sup>I-MIBG心筋シンチグラフィは両疾患を鑑別する上で有用な検査法となり得ると考えた。

八木朝子, 野田明子, 岡田 保, 古池保雄

睡眠時無呼吸症候群患者における昼間過眠をもたらす要因  
名古屋大学医療技術短期大学部紀要 9: 29-35, 1997

抄録: 睡眠時無呼吸症候群 (sleep apnea syndrome: SAS) 患者23例 (全例男性, 平均年齢54.9±6.0歳, 平均 body mass index (BMI) 26.7±4.4kg/m<sup>2</sup>) を対象とし, Epworth sleepiness scale (ESS) を用いて過眠の程度を評価した。終夜睡眠ポリグラフィより求めた睡眠構築に関する諸指標 (睡眠効率, %stage 1, %stage 2, %stage 3 + 4, %stage rapid eye movement (REM) を, 50~60歳の健常成人の標準値<sup>1)</sup>と比較した。SAS患者における睡眠効率, %stage 2, %stage 3 + 4, %stage REM は, 健常成人のそれらの標準値<sup>1)</sup>に比し有意に低値を示し, %stage 1は有意に高値を示した。ESS点数 (ESS score) は動脈血酸素飽和度90%以下の総持続時間との間に有意な相関関係を示した。またESS scoreは重症の低酸素血症群において軽症の低酸素血症群に比し有意に高値を示した。無呼吸に伴う低酸素血症および睡眠構築の障害が, SAS患者における昼間の眠気をもたらす重要な因子であると考えられた。

八木朝子, 野田明子, 伊藤理恵子, 山田 廣, 中島伸夫, 横田充弘

心エコー図によるST-T変化を加味した心電図左室肥大の検討  
臨床病理 45(8): 757-762, 1997

抄録: The purpose of the present study is to determine whether electrocardiographic QRS voltage criteria with ST-T change is useful in the diagnosis of left ventricular hypertrophy (LVH) using echocardiography. One hundred men including 59 with hypertension (HT), 9 with hypertrophic cardiomyopathy (HCM), and 32 without any cardiovascular disease were enrolled in this study. All of them had the electrocardiographic evidence of LVH by Sokolow-Lyon voltage criteria ( $RV_5$  or  $RV_6 > 2.6mV$ ,  $SV_1 + RV_5$  or  $SV_1 + RV_6 \geq 3.5mV$ ). They were classified into three groups based on ST-T pattern as follows: Normal ST-T (group N): normal ST-T in twelve leads; Early strain ST-T (group ES): ST depression, flat T ( $T/R < 1/10$ ), diphasic T or T wave inversion  $< 0.1mV$  in  $V_5$  or  $V_6$ ; and Strain ST-T (group S): inverted T wave in  $V_5$  and  $V_6$ . Echocardiographic LVH was determined when either interventricular septal thickness (IVST) or left ventricular posterior wall thickness (LVPWT)  $\geq 12mm$  was present. According to this echocardiographic evidence, 31.7% (20/63) of group N, 75.0% (12/16) of group ES, and 100% (21/21) of group S were diagnosed. There were significant correlations between QRS voltage indices ( $RV_5$ ,  $RV_6$ ,  $SV_1 + RV_5$  and  $SV_1 + RV_6$ ) and IVST,  $(IVST + LVPWT)/2$ , and LV mass in group S ( $r = 0.650$  to  $0.858$ ,  $p < 0.05$ ), but not in group N. Values for IVST and LV mass were significantly greater in group S than in group ES or N. The electrocardiographic diagnosis of LVH with both QRS voltage and ST-T change thus appeared to be more useful than that

with QRS voltage criteria alone.

**Noda Akiko**, Okada Tamotsu, Yasuma Fumihiko, Nakashima Nobuo, Yokota Mitsuhiro

Suppressed cardiac and electroencephalographic arousal on apnea/hypopnea termination in elderly patients with cerebral infarction.

Journal of Clinical Neurophysiology 14(1): 68-72, 1997

Abstract: The goal of the present investigation is to show the clinical significance of arousal response at termination of apnea/hypopnea in patients with sleep apnea syndrome (SAS) after cerebral infarction. We polygraphically assessed "cardiac arousal," which is defined as an abrupt increase in heart rate at a termination of sleep apnea/hypopnea and also electroencephalographic (EEG) arousal. There were 6 elderly bed-ridden after cerebral infarction with SAS aged 71 to 87 years (mean 72.3 years) and 11 age-matched patients with SAS aged 61 to 78 years (mean 62.3 years) as controls. The following sleep parameters were measured; number of apneas per hour (apnea index: AI), number of hypopneas per hour (hypopnea index: HI), and summation of the two (apnea/hypopnea index: AHI), and duration in which nocturnal oxygen saturation was decreased below 90% (duration of  $\text{SaO}_2 < 90\%$ ). We calculated the ratio of apnea/hypopnea per hour with cardiac arousal to total apnea/hypopneas (XI) (%cardiac arousal:  $\text{XI/AHI} \times 100$ ) and the ratio of that with EEG arousal (YI) (%EEG arousal:  $\text{YI/AHI} \times 100$ ). Between the two groups, we found no significant difference in body mass index, the ratio of central apnea to total apnea/hypopnea, AHI, duration of apnea and hypopnea, lowest  $\text{SaO}_2$ , and Duration of  $\text{SaO}_2 < 90\%$ . Compared with controls, %cardiac and %EEG arousals were significantly lower in patients with cerebral infarction than in the control subjects. In contrast, the ratio of HI to AHI was significantly higher in patients with cerebral infarction than in control subjects. Our findings indicate that cardiac and EEG arousal at termination of apnea/hypopnea are significantly suppressed in elderly patients with SAS after cerebral infarction, which may provide useful information on the pathophysiology of SAS in patients with cerebrovascular disease.

玉木和子, **野田明子**, 伊藤理恵子, 八木朝子, 山田 廣, 横田充弘, 中島伸夫

健康成人女性における僧帽弁逸脱と自律神経活動

臨床病理 45(6) : 590-594, 1997

抄録 : We examined relationships between mitral valve prolapse (MVP) and circadian rhythm of autonomic activity using spectral analysis of heart rate variability and echocardiography in 31 normal women. The heart rate variability was calculated from 24-hour ambulatory electrocardiogram by Fourier transformation. The power spectra were quantified at 0.04-0.15Hz [low frequency power(LF) $\ln(\text{ms}^2)$ ] and 0.15-0.40Hz high frequency power(HF) $\ln(\text{ms}^2)$ ]. The HF component and the ratio of LF/HF were used as indices of parasympathetic and sympathetic activity, respectively. MVP was present in 22.6%. There were no significant differences in left ventricular dimension between subjects with MVP [group MVP (+)] and subjects without MVP [group MVP (-)]. Number of ventricular premature contractions in group MVP (+) tend to be higher compared with that in group MVP (-). The level of high frequency power at 0-5 am in group MVP (+) was significantly higher than that in group MVP (-), which parasympathetic activity during sleep in MVP (+) group was higher compared with that in group MVP (-). The evaluation of autonomic activity using spectral analysis of heart rate variability for 24-hour ambulatory electrocardiogram might provide useful information about the pathology of MVP.

伊藤理恵子, 山田 廣, 中根 清, **野田明子**  
肥大型心筋症における心拍変動の概日リズム  
医学検査 45(6) : 988-994, 1997

平野幸伸, 浅井友嗣, 中川 誠, 長谷川祐一, **高木健次**, 鈴木重行  
外傷による炎症性浮腫に対する中周波通電効果  
理学療法学 24(4) : 242-247, 1997

抄録 : 本研究の目的は急性期外傷による炎症性浮腫モデルラットを作成し, この患部に対する中周波通電の効果を検討することである。モデルラットは右足背部にイギリス製ポリプロピレンを置き, 23cmの高さから110gの金属球を自由落下させ作成した。

対象は無通電のコントロール群 10 例, 通電群 40 例とした。通電は周波数の違う市販の中周波刺激装置 4 機種 (A: 11kHz, B: 4kHz, C: 4kHz, D: 5kHz) を用い, 受傷後 5 分から 20 分の 15 分間とした。効果の判定は足部体積変化量とエバンスブルー相対量を指標とした。結果, 足部体積変化量は A がコントロール群に比べ有意に低かったが, その他は有意差がなかった。エバンスブルー相対量は A, B, D がコントロール群に比べ有意に低値であった。したがって, 中周波通電は周波数 4 および 5kHz に比べ 11kHz が外傷性浮腫に対して抑制的に作用することが示唆された。

真弓俊彦, 武澤 純, 高橋英夫, 桑山直人, 福岡敏雄, 山田浩二郎, 中尾 誠, **高木健次**  
血清 diamine oxidase による小腸粘膜機能の評価  
消化と吸収 20(1) : 143-148, 1997

抄録 : Background. Although intestinal mucosal integrity is one of the main factors of bacterial translocation, no conventional method was approved to evaluate it. Serum diamine oxidase (sDAO) which comes from the intestinal mucosa is reported to decrease, with atrophy of the intestinal mucosa.

Methods. Serum DAO levels in fifty five patients who underwent operation were measured and evaluated if these levels were related to the development of postoperative complications.

Results. The DAO levels significantly decreased after the operation and returned to the preoperative values on postoperative day 7. The preoperative DAO levels of the patients who developed postoperative complications were significantly lower than those of the patients without complications, whereas serum total protein or albumin levels were same levels. The postoperative DAO levels of the patients with postoperative complication remained significantly lower than those of the patients without complications.

Conclusions. These data indicate the patient who already has preoperative intestinal mucosal injury may have a higher risk of postoperative complications. Serum DAO level is a reliable indicator of intestinal mucosal integrity.

#### 【総説・解説・その他】

川上 治, 宝珠山稔, 平山正昭, **古池保雄**, 祖父江元  
パーキンソン病における連合運動障害  
日本臨牀 55 : 179-184, 1997

平山正昭, **古池保雄**  
自律神経検査法 (1)  
日本臨牀 55(増刊) : 487-490, 1997

平山正昭, **古池保雄**

自律神経検査法 (2)

日本臨牀 55(増刊) : 491-493, 1997

**古池保雄**, 高橋 昭

パーキンソン病における自律神経障害の多様性

とれもろ 25 : 2-4, 1997

小島健一, **長瀬文彦**

輸血検査シリーズ-中級者を目指すために- 輸血に必要な知識 第1回 免疫血清学的知識

Medichal Technology 25(7) : 705-713, 1997

**高木健次**, 中尾 誠, **國井 鏡**

特集 腸管機能の評価法 血清ジアミン酸化酵素測定法

JJPEN 19(7) : 655-660, 1997

真弓俊彦, 武澤 純, 高橋英夫, 桑山直人, 福岡敏雄, 山田浩二郎, 中尾 誠, **高木健次**

特集 腸管機能の評価法 消化器外科周術期と血清 DAO の変動

JJPEN 19(7) : 661-666, 1997

真弓俊彦, 二村雄次, 宮地正彦, 桑山直人, 中尾 誠, **高木健次**, 武澤 純

消化器外科術後と MOF, MODS - 周術期腸管粘膜障害からみた病態と対策 -

集中治療 9(2) : 199-205, 1997

#### 【科研費・班研究等】

**古池保雄**, 間野忠明, 服部孝道, 葛原茂樹, 塩澤全司, 平山正昭

高齢者の自律神経機能 (班総括)

平成 8 年度厚生省長寿科学研究報告書 pp. 291-293, 1997

**古池保雄**, 平山正昭, 家田俊明

睡眠時呼吸障害の多様性

平成 8 年度厚生省長寿科学研究報告書 pp. 317-320, 1997

#### 【その他の印刷物】

大村いづみ, 高木靖文, 渡辺美樹, 永田量子, **倉科正徳**

社会人入学者の入学, 学習, および社会人特別選抜にかんする調査

医療技術短期大学部における社会人受け入れの準備のための調査研究 pp. 3-11, 1997

**倉科正徳, 高木健次**

社会人入学者の入試成績と短大での学習成績

医療技術短期大学部における社会人受け入れの準備のための調査研究 pp. 14-19, 1997

辻井洋一郎, 河村守雄, 杉村公也, **倉科正徳**

社会人特別選抜による入学の実情・制度・問題点の調査

医療技術短期大学部における社会人受け入れの準備のための調査研究 pp. 20-23, 1997

前越 久, 小山修司, **倉科正徳**

社会人入学者の卒業後の各職域における適応度の調査

医療技術短期大学部における社会人受け入れの準備のための調査研究 pp. 27-31, 1997

**【学会発表】**

**ITO Hideo**, SENDA Kazuyoshi, YAGI Tetsuya, SHIBAYAMA Keigo, OHTA Michio, KATO Nobio, ARAKAWA Yoshichika

Further Proliferation of Carbapenem-Resistant Gram-Negative Rods That Produce IMP-1-type Metallo- $\beta$ -lactamase.  
(Abstract p.62, 1997)

37th Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy, 1997.9 (Toronto, Canada)

**KITAICHI Kiyoyuki**, CHABOT Jean-Guy, DUMONT Yvan, BOUCHARD Pascale, QUIRION Remi

Antisense oligodeoxynucleotide against the signal receptor regulates MK-801-induced memory deficits in mice.  
(Soc Neurosci Abstr 23: 1785, 1997)

27th Annual Meeting Society for Neuroscience, 1997.10 (New Orleans, USA)

CHABOT Jean-Guy, FLANDORFER Astrid, **KITAICHI Kiyoyuki**, GLOSSMANN Hance, QUIRION Remi

Cloning and tissue gene expression of a murine signal receptor. (Soc Neurosci Abstr 23: 1785, 1997)

27th Annual Meeting Society for Neuroscience, 1997.10 (New Orleans, USA)

ROWE Wayne, ROSE Mary, **KITAICHI Kiyoyuki**, RICHARD Jean, DOODS Henry, MEANEY Michael, QUIRION Remi

Long-term effects of BIBN-99, a muscarinic M2 receptor antagonist in reversing cognitive deficits in aged memory-impaired rats. (Soc Neurosci Abstr 23: 214, 1997)

27th Annual Meeting Society for Neuroscience, 1997.10 (New Orleans, USA)

**倉科正徳**, 恒川貴衣, 角屋雅路

類内膜腺癌 G1 の進行程度と異型内膜増殖症との細胞学的鑑別の関係 (プログラム p. 11, 1997)

第 16 回日本臨床細胞学会東海連合会総会, 1997. 3 (名古屋)

角屋雅路, 三澤俊哉, 東出香二, 近田千尋, 佐竹立成, **倉科正徳**, 栗田宗次

経膈超音波断層法における子宮内膜厚と内膜細胞診成績及びその細胞像についての検討 (日本臨床細胞学会雑誌 36 (補冊) : 181, 1997)

第 38 回日本臨床細胞学会, 1997. 5 (高松)

杜 軍, AKHAND A. Anwarul, **長瀬文彦**, 鈴木治彦, 中島 泉  
低濃度の Hg<sup>2+</sup>による T 細胞株 CTLL-2 へのシグナル伝達の特徴 (学術集会記録 27 : 319, 1997)  
第 27 回日本免疫学会, 1997. 10 (札幌)

八木朝子, **野田明子**, 岡田 保, **古池保雄**  
睡眠時無呼吸症候群の昼間過眠 (医学検査 46(3) : 347, 1997)  
第 46 回日本臨床衛生検査学会, 1997. 4 (名古屋)

**野田明子**, 岩瀬三紀, 横田充弘  
閉塞性睡眠時無呼吸症候群における日中の傾眠がもたらす交通事故  
第 51 回日本交通医学学会, 1997. 6 (名古屋)

岡田 保, 羽生美香, **野田明子**, 粥川裕平, 太田龍朗  
睡眠時無呼吸症候群における中年型と老年型 (抄録集 p.170, 1997)  
第 22 回日本睡眠学会, 1997. 7 (東京)

**野田明子**, 岡田 保, 粥川裕平, 太田龍朗  
閉塞性睡眠時無呼吸症候群における日中の傾眠と交通事故 (抄録集 p.172, 1997)  
第 22 回日本睡眠学会, 1997. 7 (東京)

**野田明子**  
2D 法および M モード法による心機能評価 (予稿集 p.6, 1997)  
第 9 回日本超音波医学会中部地方会, 1997. 7 (金沢)

鈴木雅博, **野田明子**, 祖父江俊和, 横田充弘, 安井昭二  
健康診断において発見された無症候性の拡張型心筋症 (日本臨床生理学会雑誌 27(Suppl) : 125, 1997)  
第 34 回日本臨床生理学会, 1997. 10 (東京)

八木朝子, **野田明子**, 伊藤理恵子, 山田 廣, **古池保雄**  
概日リズム-朝型・夜型と生活習慣- (日本臨床生理学会雑誌 27(Suppl) : 102, 1997)  
第 34 回日本臨床生理学会, 1997. 10 (東京)

**野田明子**, 伊藤理恵子, 山田 廣, 横田充弘  
心筋症および冠動脈疾患における睡眠呼吸障害 (臨床病理 45(補冊) : 126, 1997)  
第 44 回日本臨床病理学会, 1997. 11 (神戸)

八木朝子, **野田明子**, 木多久美子, 岡田 保  
閉塞性睡眠時無呼吸症候群における終夜睡眠ポリグラフィ所見と超低磁場 MRI 法による上気道閉塞部位との関係 (臨床病理 45(補冊) : 130, 1997)  
第 44 回日本臨床病理学会, 1997. 11 (神戸)

片田雅子, **野田明子**, 伊藤理恵子, 鈴木雅博, 神園寛明, 横田充弘, 安井昭二, 小倉幸夫  
健康診断において発見された心筋症 (臨床病理 45(補冊) : 122, 1997)  
第 44 回日本臨床病理学会, 1997. 11 (神戸)

中尾 誠, 小倉庸蔵, 長谷川高明, 宮地正彦, 二村雄次, **高木健次**, 鍋島俊隆  
クローン病患者の排便管理に対する可溶性食物繊維の有用性 (講演要旨集 p. 330, 1997)  
第 7 回日本病院薬学会年会, 1997. 9 (名古屋)

今里秀俊, 藤井留幸, ミューレンベック ゲルハルト, 平野幸伸, 長谷川祐一, 中川 誠, 浅井友嗣, **高木健次**, 鈴木重行  
可変式中周波刺激装置の開発  
第 5 回物理療法研究会・セミナー, 1997. 11 (名古屋)

長谷川祐一, 福吉正樹, 平野幸伸, 中川 誠, 柴山 靖, 柳田光輝, **高木健次**, 鈴木重行  
中周波通電時の周波数変化がラットの炎症性浮腫に与える影響  
第 5 回物理療法研究会・セミナー, 1997, 11 (名古屋)

**高木健次, 北市清幸**

血清ジアミン酸化酵素測定と臨床応用  
第 42 回臨床化学のつどい, 1997. 11 (大阪)

理学療法学専攻

## 〔著書〕

見松健太郎, **河村守雄**

「やさしい肩こり・腰痛・シビレの話」

名古屋大学出版会, 1997

**鈴木重行**, 高田治美

下肢切断「理学療法評価 そのクリニカルアプローチ」(嶋田智明編) pp. 168-180

メディカルプレス, 1997

**辻井洋一郎**

マイオセラピー「図解理学療法技術ガイドー理学療法臨床の場で必ず役立つ実践のすべて」 pp. 478-481

文光堂, 1997

## 〔原著論文〕

杉浦博基, 清水卓也, 岩田 久, **猪田邦雄**

習慣性肩関節後方(亜)脱臼に対する観血的治療経験

肩関節 21(2) : 373-376, 1997

抄録: There has been no definitive treatment for habitual posterior dislocation of the shoulder. The purpose of this study was to evaluate the clinical results of the glenoid osteotomy combined with the posterior capsulorrhaphy for patients with habitual posterior dislocation of the shoulder.

There were 5 men and 3 women with an average age at operation of 21 years (range, 15-45 years), totally eight shoulders in 8 patients. All of the patients had a positive sulcus sign indicating an inferior looseness in addition remarkable posterior instability. The patients who had remarkable anterior instability (loose shoulder) and could dislocate their shoulders voluntarily were excluded from this study.

An osteotomy was performed so that the articular surface of the glenoid inclined both anteriorly and superiorly. A bone block taken from the iliac crest, was trimmed to be about 20° wedge-shaped and to extend to the posterior edge of the glenoid and was used for all the patients. The mean follow-up period after surgery was 4.5 years (range, 1.4-9.8 years)

Two patients did not improve their posterior instability postoperatively, one had a general joint laxity and the other had an insufficient corrective angle of the glenoid by osteotomy. The other six patients improved their posterior instability and were satisfied with the results. A subacromial impingement occurred in one but was successfully managed with an arthroscopic subacromial decompression. So, patient selection and proper surgical techniques seem to be the key factors for successful results.

In conclusion, a glenoid osteotomy combined with posterior capsulorrhaphy was effective for habitual posterior dislocation of the shoulders.

伊藤真理子, 北澤佐知枝, **河村守雄**

実験的異所性骨化に対する強制他動運動と不動化の影響

名古屋大学医療技術短期大学部紀要 9 : 37-42, 1997

抄録: 整形外科やリハビリテーションの領域において, 異所性骨化は疾病や障害からの回復を遅延させる重要な病態であり, その発生機序や骨形成量と運動や関節拘縮との関わりが指摘されてきた。異所性骨化と運動

や不動化との関係を知るために、骨形成因子 (Bone Morphogenetic Protein) のマウス筋肉内移植による実験的異所性骨化モデルを作り、強制他動運動やギプス固定を付加したときに形成される新生骨の灰分重量を比較検討した。結果は、実験 1 では自由運動群で 7.38mg, ギプス固定群 (不動化群) で 8.75mg, 自由運動+強制運動群で 10.8mg の平均灰分重量を得たが各群間に有意差はなかった。実験 2 ではギプス固定群で 6.01mg, ギプス固定+強制他動運動群で 6.93mg の平均灰分重量を得たが両群間に有意差はなかった。しかし、いずれの実験においても強制運動群で多くの骨形成量を認め、強制運動が BMP による実験的異所性骨化の骨形成量に何らかの影響を及ぼす可能性が示唆された。また、骨形成因子の移植量, 手術時の出血の程度, 移植部位, 他動運動の負荷の方法や運動量なども骨形成量に影響を及ぼすと考えられた。

SUZUKI Kazuyo, KOBAYASHI Miya, **KOBAYASHI Kunihiko**, SHIRAIISHI Yosuke, GOTO Setsuko, HOSHINO Takeshi

Structural and functional change of blood vessel labyrinth in maturing placenta of mice.

Trophoblast Research 9 : 155-164, 1997

Abstract: The mouse placenta consists of fetal blood vessels, interpolating trophoblast cells and maternal blood spaces forming a labyrinth. It was observed that in contrast to the rapid growth of fetuses, the placentae maintained a constant size through pregnancy. The weight ratio of fetus/placenta was 30:1 at birth, about 5 times that in humans. To investigate the efficiency of the labyrinth in materno-fetal exchange in maturing placenta, we histologically examined the formation of the labyrinth as pregnancy advanced. In the late stage, fetal blood vessels and maternal blood spaces had fine, close-knit branches that formed a complex labyrinth, which may explain the efficient exchange of nutrients and wastes between fetus and mother. The maturation of mouse placenta is accompanied by the formation of a more complex labyrinth rather than on any increase in size.

FUJITA Yoshikazu, **KOBAYASHI Kunihiko**, HOSHINO Takeshi

Atomic force microscopy of collagen molecules. Surface morphology of segment-long-spacing (SLS) crystallites of collagen.

Journal of Electron Microscopy 46(4) : 321-326, 1997

Abstract: Three dimensional structures of laterally aggregated bundles of collagen molecules, segment-long-spacing (SLS) crystallites, were imaged by atomic force microscopy (AFM) under atmosphere. The overall image of the type I collagen SLS in a height-amplified mode was semi-cylindrical, ca. 300 nm in length, with two bands of elevation near both N- and C-ends of the molecule. Its "cross sectional" profile (across the molecular axis) was a smooth arch. The "axial" profile (along the molecular axis) had two prominent peaks ca. 250 nm apart, corresponding to the two bands of elevation. There were several minor peaks between these two prominent peaks. The elevation near both ends are likely explained by the presence of covalently bound sugars near both N- and C-ends of the helical part of type I collagen  $\alpha$  chains. The AFM images of SLS presented here indicate that the type I collagen molecule is not uniform in diameter and has two bulged parts within its triple helix.

白石洋介, **小林邦彦**, 早川みどり, 田中重徳, 星野 洸

ヒト顎関節における関節円板後外側部の支靭帯及び静脈

理学療法の医学的基礎 1 : 6-10, 1997

抄録 : In the human temporomandibular joints of 14 Japanese cadavers, we observed a new retinacular ligament which connected to the retrodiskal pad posterolaterally and was accompanied by a vein connecting with the venous plexus of the retrodiskal pad. This retinacular ligament originated from lateral to postero-

lateral part of the joint. The origin included the articular tubercle of the zygomatic process of the temporal bone. The ligament descended along the mandibular ramus to insert into the fascia of the masseter muscle at the mandibular angle. The vein run from beneath the fascia of the masseter muscle at the mandibular angle to the venous plexus in the retrodiskal pad, which run parallel to the retinacular ligament, giving off branches to the retromandibular, facial, and superficial temporal veins. There were no remarkable differences in the size of the retinacular ligaments among individuals as well as between the left and right sides. The retinacular ligament had firm fibrous connections with the posterolateral part of the retrodiskal pad, wherever the external fibrous membrane of the articular capsule was lacking. These findings suggest that the retinacular ligament and its accompanying vein function together to maintain blood circulation during jaw movement and may also be related to the development of occlusal disorders. (Key words: retinacular ligament, joint capsule, vein, temporomandibular joint)

**KOEDA Tomoko, TSUJII Yoichiro, SATO Jun, KUMAZAWA Takao and MIZUMURA Kazue**

Changes in plantar skin blood flow and temperature by lumbar sympathetic stimulation in adjuvant arthritic rats. *Environmental Medicine* 41(2) : 110-113, 1997

Abstract: Previously we have reported that sympathetic nerve stimulation induces a skin blood flow (BF) increase in the hindpaw plantar skin in about half of the adjuvant arthritic (AA) rats, although it produces vasoconstriction in normal rats. Because the BF was measured only at one place in each rat, we do not know whether the BF response is the same everywhere on the plantar skin. The purpose of the present study is to clarify whether the existence of the paradoxical vasodilating response differs individually among AA rats of only regionally in the plantar skin among those the same rats. For this we measured BF and temperature changes in three different areas of the plantar skin in the same rat with a laser doppler flowmeter and a thermal video system. Sympathetic nerve stimulation induced a BF increase in at least one area in all 12 rats except one. The ratio of BF increase response was about half (42 - 75%) in each area. The temperature also increased at 10 out of 36 points in two AA rats. These results demonstrated that the paradoxical BF increase response was induced in almost all AA rats, but areas with a BF increase response were intermingled with those showing a BF decrease response.

平野幸伸, 浅井友詞, 中川 誠, 長谷川祐一, 高木健次, **鈴木重行**

外傷による炎症性浮腫に対する中周波通電の効果

理学療法学 24(4) : 242-247, 1997

抄録: 本研究の目的は急性期外傷による炎症性浮腫モデルラットを作成し, この患部に対する中周波通電の効果を検討することである。モデルラットは右足背部にイギリス製ポリプロピレンを置き, 23cmの高さから110gの金属球を自由落下させ作成した。

対象は無通電のコントロール群10例, 通電群40例とした。通電は周波数の違う市販の中周波刺激装置4機種(A: 11kHz, B: 4kHz, C: 4kHz, D: 5kHz)を用い, 受傷後5分から20分の15分間とした。効果の判定は足部体積変化量とエバンスブルー相対量を指標とした。結果, 足部体積変化量はAがコントロール群に比べ有意に低かったが, その他は有意差がなかった。エバンスブルー相対量はA, B, Dがコントロール群に比べ有意に低値であった。したがって, 中周波通電は周波数4および5 kHzに比べ11 kHzが外傷性浮腫に対して抑制的に作用することが示唆された。

福田明宏, 佐野哲也, 長谷川祐一, 林 一成, 平野幸伸, **鈴木重行**

変形性膝関節症に対する直線偏向近赤外線照射の効果

愛知県理学療法士会誌 9(2) : 14-15, 1997

渡辺利恵, 中西啓介, **鈴木重行**, 柴田澄江, 清水英樹, 橋本 淳  
地域リハビリテーション参加への試み  
愛知県理学療法士会誌 9(2) : 74-75, 1997

**肥田朋子**, 佐藤 純, **辻井洋一郎**, 熊澤孝朗, 水村和枝  
アジュバント関節炎ラットの腰部交感神経刺激による足底皮膚血流反応の部位による違い  
名古屋大学環境医学研究所年報 48 : 69-70, 1997

柴田 恵, **辻井洋一郎**, **河上敬介**  
三角筋の解剖学的特徴  
理学療法の医学的基礎 1 : 2-5, 1997

抄録 : Shoulder pains are common problem presenting to the physical therapy clinics. Myopain is a major cause of shoulder pains. In a previous study, we suggested that the deltoid muscle might be the main muscle involved in the shoulder myopain. It is well known that the deltoid has a complicated morphological structure as shown in textbooks of anatomy. An exact understanding of anatomy of this muscle is essential for examination and treatment in physical therapy. Previously, we examined the macroscopic structure of the deltoid, and found that the anatomical and functional complexity might be closely related with the structure of the intramuscular tendons. In this study, therefore, we further examined the intramuscular tendons in 25 deltoid muscles. As the results, most of them had one or more tendons rising from the insertion (TI) than the origin (TO). Type I had one more tendon (n=13), type II had two more tendons (n=8), type III had three more tendons (n=3), and type IV had the same number of TO and TI (n=1). The intramuscular tendons were found mainly in the intermediate fibers, only a few in the anterior or posterior fibers. In the intermediate fibers, TI and TO were alternately arranged at the muscle belly, which enables the deltoid to take a multipennate form. The findings of the present study suggest that this alternate arrangement of the intramuscular tendons might be closely related with the complicated function of the deltoid muscle, and also with the cause of myopain around the shoulder joint.

## 【総説・解説・その他】

### 猪田邦雄

大腿骨頸部骨折に対するベッドサイドでの早期リハビリテーションの必要性と可能性  
関節外科 16(11) : 115-124, 1997

### 猪田邦雄

スポーツ障害と装具療法  
総合リハビリテーション 25(1) : 13-20, 1997

### 猪田邦雄, 河村守雄, 鈴木善朗, 千葉晃泰

大腿骨頸部骨折に対するリハビリテーションの実際  
リハビリテーション医学 34(2) : 138-148, 1997

**猪田邦雄**, 松本芳樹

整形外科領域における装具療法—肩・肘関節疾患の装具  
日本義肢装具学会誌 13(4) : 284-298, 1997

**河村守雄**, **猪田邦雄**

頰椎症の治療とリハビリテーション  
現代医学 45(1) : 149-155, 1997

外崎 昭, **小林邦彦**, 塩田俊朗, 高木 宏, 渡辺 皓

医療技術者養成機関における人体関連教育に関する実状調査  
解剖学雑誌 72(5) : 475-780, 1997

**小林邦彦**

電子メール考  
健康文化振興財団紀要 17 : 31-35, 1997

**小林邦彦**

開いてみようホームページ—名古屋大学医療技術短期大学部のホームページから世界へネットサーフィンを— (連載  
シリーズ・ホームページへの招待 第19回)  
医学のあゆみ 181(3) : 231-236, 1997

**鈴木重行**

留学雑感(1) —修士課程プログラムと学会の様子—  
理学療法 14(8) : 682-683, 1997

**鈴木重行**

留学雑感(2) —ATPA学会と大学訪問—  
理学療法 14(10) : 846-847, 1997

**鈴木重行**

留学雑感(3) —大学訪問その2—  
理学療法 14(11) : 924-925, 1997

**鈴木重行**

留学雑感(4) —クリニック訪問とユニバーサルデザイン—  
理学療法 14(12) : 1000-1001, 1997

NAGATA Craig B, **TSUJII Yoichiro**

MyoThelapy: A New Approach to the Treatment of Muscle Pain Syndrome.  
Journal of Manual & Manipulative Therapy 5(2) : 87-90, 1997

**辻井洋一郎**

マイオセラピー—筋病変の検査と治療  
季刊マニピュレーション 12(1) : 58-65, 1997

### **辻井洋一郎**

マイオセラピー—マイオセラピーの実践手順（前編）  
季刊マニピュレーション 12(2) : 60-68, 1997

### **辻井洋一郎**

マイオセラピー—マイオセラピーの実践手順（後編）  
季刊マニピュレーション 12(3) : 90-96, 1997

### **辻井洋一郎**

マイオセラピー  
理学療法ジャーナル 31(10) : 766-767, 1997

### **【科研費・班研究等】**

外崎 昭, **小林邦彦**, 塩田敏朗, 高木 宏, 渡辺 皓  
医療技術者養成機関における人体関連教育に関する実状調査  
平成8年度厚生省科学研究補助金事業実績報告書 1冊, 1997

橋本 淳, 内堀充敏, **鈴木重行**, 渡辺利恵, 柴田澄江, 清水英樹, 片岡 泉, 清水いずみ, 中西啓介  
在宅高齢者のリハビリテーションシステムの構築とその問題点に関する研究  
財明治生命厚生事業団第12回健康医科学研究助成論文集 12 : 129-139, 1997

### **【その他の印刷物】**

#### **小林邦彦**

第17回人体解剖トレーニングセミナーに参加して—保存的解剖のすすめ—  
第17回人体解剖トレーニングセミナー報告書 p.58, 1997

### **【学会発表】**

#### **猪田邦雄, 河村守雄, 鈴木善朗, 千葉晃泰**

足底面急傾斜刺激に対する高齢者の姿勢調節能と大腿骨頸部骨折との関係（リハビリテーション医学 34(11) : 799, 1997）

第34回日本リハビリテーション医学会総会, 1997.8（京都）

#### 三嶋真爾, 高橋成夫, 可知 悟, **猪田邦雄**, 清水卓也, 杉浦博基

ACL再建術時のimpingement障害予防法と術後関節鏡視所見（関節鏡 22(3) : 8, 1997）

第23回日本関節鏡学会, 1997.12（東京）

松原貴子, 講武芳英, **河上敬介**, **辻井洋一郎**, 兼松美紀  
大殿筋の起始と停止の形態  
第 24 回日本理学療法士学会, 1997. 5 (大宮)

**河上敬介**, **辻井洋一郎**

肉眼解剖学的研究と理学療法  
第 2 回理学療法の医学的基礎研究会学術集会, 1997. 5 (東京)

松原貴子, 講武芳英, **河上敬介**, **辻井洋一郎**, 兼松美紀  
大殿筋の肉眼解剖学的特徴  
第 2 回理学療法の医学的基礎研究会学術集会, 1997. 5 (東京)

ITO Tokiko, NAGANAWA Shinji, FUKATSU Hiroshi, ISHIGAKI Takeo, KOBAYASHI Miya, **KOBAYASHI Kunihi-**  
**ko**, ICHINOSE Nobuyasu, MIYAZAKI Mitsue  
High resolution MR images for the inner ear internal anatomy using a local gradient coil at 1.5 T: Correlation with  
histological specimen.  
5th Scientific Meeting of International Society for Magnetic Resonance in Medicine, 1997.4 (Vancouver, Canada)

小林身哉, **小林邦彦**, 星野 洸, 小林 繁, 杉浦康夫, 鬼頭純三, 山下和雄  
名古屋大学人体解剖トレーニングセミナーの 16 年 (解剖学雑誌 72(4) : 325, 1997)  
第 102 回日本解剖学会全国学術集会, 1997. 3 (愛知県長久手町)

鈴木和代, 小林身哉, 白石洋介, **小林邦彦**  
マウス胎盤の成熟と組織構築の変化について (解剖学雑誌 72(4) : 377, 1997)  
第 102 回日本解剖学会全国学術集会, 1997. 3 (愛知県長久手町)

藤田芳和, 渡辺道子, 小林身哉, **小林邦彦**  
原子間力顕微鏡による組織コラーゲン細線維の表面構造の解析 (抄録 23-II-1015)  
第 53 回日本電子顕微鏡学会学術講演会, 1997. 5 (尼崎)

**肥田朋子**, 佐藤 純, **辻井洋一郎**, 熊澤孝朗, 水村和枝  
アジュバント関節炎ラットにおける腰部交感神経刺激による足底皮膚血流反応の特徴  
第 74 回日本生理学会大会, 1997. 3 (浜松)

渡辺利恵, 中西啓介, **鈴木重行**, 柴田澄江, 清水英樹, 橋本 淳, 内堀充敏  
在宅機能訓練事業における評価表の妥当性と訓練効果判定 (理学療法学 24 : 294. 1997)  
第 32 回日本理学療法士学会, 1997. 5 (埼玉)

今里秀俊, 藤井留幸, ゲルハルト・ミュレンバック, 平野幸伸, 長谷川祐一, 中川 誠, 浅井友詞, 高木健次, **鈴木重行**  
可変式中周波刺激装置の開発  
第 5 回物理療法研究会, 1997. 11 (名古屋)

長谷川祐一，福吉正樹，平野幸伸，中川 誠，柴山 雅，柳出光輝，高木健次，**鈴木重行**  
外傷による炎症性浮腫に対する中周波通電の効果—周波数の違いによる炎症性浮腫への影響—  
第5回物理療法研究会，1997.11（名古屋）

**【公開講座・講演会】**

**河村守雄**

腰痛のはなし

愛知県電力関連産業安全衛生研修会，1997.8（春日井）

# 作業療法学専攻

## 〔著書〕

### 原 和子

リハビリテーション療法Ⅱ 日常生活における関節の保護と変形の予防 「リウマチ患者の生活ガイド」 (日本リウマチ友の会編) pp. 80-88  
小学館, 1997

### 原 和子

暮らしの中での基礎療法Ⅰ 上手に暮らす 1 -生活環境を改める- 「リウマチ患者の生活ガイド」(日本リウマチ友の会編) pp. 112-121  
小学館, 1997

赤木繁夫, 今野孝彦, 三枝康宏, 中村宏志, 原 和子, 副迫 剛, 藤谷順子, 水落和也, 村澤 章, 山本 宏  
「リウマチと靴」(リウマチ 110 番 何でも相談室 17)  
日本リウマチ友の会, 1997

## 〔原著論文〕

### 井神隆憲, 堀江志保, 美和千尋

精神病院退院者の外泊先, 外出頻度からの OT の援助を考える

愛知作業療法 5: 12-13, 1997

抄録: 入院している精神分裂病患者 22 名を対象に, 退院時の退院先, 退院期間, 外出頻度と目的をたずねた。退院先では親元が 15 名で最も多く期間では 6 カ月から 1 年未満が 9 名で, 3 年以上の者が 8 名であった。外出頻度では週 4 回以上 8 名で最も多く, その目的は就労であった。以上から週当たりの外出頻度の高い者および就労している者の退院期間が長いことが分かった。また親元以外の退院者では, 仕事先やアパートでの一人暮らしのほか, 兄弟のところと答えた者は 1 名であった。OT としては単身生活を念頭においた入院中からの働きかけが必要である。

### 美和千尋, 井神隆憲, 金森祐子

作業療法参加患者における意識調査-年齢および入院期間からの検討-

愛知作業療法 5: 5-8, 1997

抄録: 作業療法 (OT) 参加患者を対象に, 意識調査を行い, 入院期間と年齢について検討を加えた。37 名 (男性 20 名, 女性 17 名) の入院患者を対象に, 「作業療法にどういう思いで参加していますか」と質問を行った。患者は OT を交流の場所, リハビリテーションの場所として捉えていたが, 強制参加, 惰性参加, 報酬の得る所と答える者も長期入院者に多かった。若年者では交流する場所やリハビリテーションとして OT に参加する者が少なかった。この原因として患者および病院職員の OT に対する意識の低さや OT 参加患者へのオリエンテーション不足が考えられ, 患者および病院職員に OT の理解を得られるように働きかける必要があると思われる。

### 佐藤陽子, 美和千尋, 安藤陽子, 井神隆憲

生産プログラムにおける患者の参加意識と動向

愛知作業療法 5: 9-11, 1997

抄録: 当院の作業療法は, 社会復帰を進める 1 つのプログラムとして職業能力の獲得などを目的に生産作業

を用いたプログラムを導入した。しかし、その目的が十分に果たされていないように思われた。

そこで今回、生産作業プログラムに参加した患者を対象とし、アンケート用紙と動向調査により、参加時の気分、開始前後の変化、現在の参加状況、退院後の状況の調査を行った。このプログラムは、精神面及び対人面における改善が認められたが、職業的な面が十分に機能できていないことが観察された。その要因として、内容の単純さ、対象者の選択、社会復帰の場の不足が推察された。

**美和千尋**, 杉山由樹, 岩瀬 敏, 杉山由樹, 松川俊義, 間野忠明, 渡辺丈眞, 小林章雄

急速水浸による循環動態の変化に対する加齢の影響

環境医学研究所年報 48 : 199-201, 1997

**美和千尋**, 植村博也, 新宮尚人, **田村好弘**, **井神隆憲**

精神分裂病患者の身体機能に及ぼす入院期間および薬物の影響

作業療法 16(4) : 280-285, 1997

抄録：精神分裂病患者は生活障害者とわれ、生活全般に能力が低下している。その一つに、身体機能の低下があり、それが社会復帰の障害要因になっている。今回、われわれは精神分裂病患者の運動機能測定を行い、同時に患者の入院期間と向精神薬の服薬量を調査し、その運動機能への影響について検討した。精神分裂病患者には筋力（握力・背筋力）、跳躍力、柔軟性の全てに能力低下があったが、握力以外の低下には入院期間および向精神薬とに有意な相関関係は認められなかった。精神分裂病患者の運動機能低下には入院期間や服薬量以外の要因が複雑に関与していると考えられた。作業療法では精神分裂病患者の身体機能への働きかけが重要であると考えられる。

**美和千尋**, 岩瀬 敏, 小出陽子, 松川俊義, 杉山由樹, 間野忠明

40℃入浴 20 分間によるヒトの生理的变化と心理的变化の関係

総合リハビリテーション 25(8) : 732-742, 1997

**MIWA Chihiro**, SUGIYAMA Yoshiki, IWASE Satoshi, MANO Tadaaki, OHIRA Yoshinobu, GRIGORIEV Anatoly, KOZLOVSKAYA Inessa, EGOROV Anatoly, SHENKMAN Boris

Effects of Three Days of Dry Immersion on Heart Rate and Blood Pressure Variabilities during Head-up Tilting. Environmental Medicine 41(2) : 135-137, 1997

Abstract: In this study we examined the effects of 3 days of dry immersion on heart rate variability (HRV) and blood pressure variability (BPV) in response to head-up tilting in 4 healthy young subjects aged 21 to 36 years. Resting value of the high-frequency (HF) power of BPV and HRV decreased, while the low-frequency (LF)/HF ratio of HRV and blood pressure increased after the dry immersion. The HF power of HRV decreased, while the LF/HF ratio of HRV and heart rate increased during head-up tilting before and after dry immersion. All powers of BPV and BP were unchanged during head-up tilting. The values of the decrease in the HF power of HRV and the increase in the LF/HF ratio during head-up tilting after dry immersion were larger than those before. These results suggest that 3 days of dry immersion altered the autonomic balance toward the sympathetic dominant at rest, and that cardiac function may play a crucial role in BP maintenance during head-up tilting compared with vasoconstrictor function.

**MIWA Chihiro**, SUGIYAMA Yoshiki, MANO Tadaaki, IWASE Satoshi, MATSUKAWA Toshiyoshi

Sympatho-Vagal Responses in Humans to Thermonutral Head-out Water Immersion.

Aviation Space Environmental Medicine 68 : 1109-1114, 1997

Abstract: To clarify the role of autonomic nervous functions in cardiovascular adaptation to microgravity, heart

rate variability (HRV) and blood pressure variability (BPV) were evaluated during thermoneutral head-out water immersion (HOI) of eight healthy young subjects 23 to 31 yr of age. The very low-frequency (VLF; 0.00–0.04 Hz) component of BPV tended to increase during HOI, whereas the low-frequency (LF; 0.04–0.15 Hz) component of BPV and the ratio of LF power to high-frequency (HF; 0.15–0.40 Hz) component (LF/HF ratio) of HRV decreased. The HF component of HRV increased in all the subjects during immersion up to the shoulder. Concomitantly, we found a decrease in heart rate and increases in stroke volume and cardiac output with no significant changes in BP and respiration rate during HOI. These results suggest that both vasomotor and cardiac sympathetic activities are suppressed and that the parasympathetic (vagal) activity is enhanced during HOI.

**山田恭子, 仮谷妃呂子, 柴田澄江**

#### 4. 5. 6 歳児の感覚入力に対する反応

愛知作業療法 5 : 14-18, 1997

抄録： 4～6 歳の健常児に対して「感覚入力反応検査評価基準」に基づき、触覚・痛覚・固有受容覚・前庭覚・視覚・聴覚・嗅覚の 7 種類 11 項目の感覚刺激を入力し、それに対する反応を検査したところ触覚系の「軽い空気の触覚」、前庭覚の「回転後眼振」、視覚系の「視覚刺激」、嗅覚系の「嗅覚刺激」の 4 項目において有為に低反応傾向が見られた。これは 4 つの感覚刺激に対する閾値の高さを示唆し、また感覚統合療法対象児に検査をした場合、比較対照群として無視できない要素になると考えられる。

**山田恭子, 仮谷妃呂子, 柴田澄江, 杉村公也**

#### 精神遅滞児への感覚入力反応

作業療法 16 : 432-440, 1997

抄録： 精神遅滞児の感覚入力状況を調べるため、4～6 歳の健常児と精神遅滞児に対して「感覚入力反応検査評価基準」に基づいて触覚・痛覚・固有受容覚・前庭覚・視覚・聴覚・嗅覚の 7 種類の感覚刺激を入力し、反応を検査した。

その結果、触覚・痛覚・前庭覚（回転後眼振）については低反応、固有受容覚（四肢への圧迫）・視覚については過剰反応が見られた。Ayres が、感覚統合過程が統合される最初の段階で重要であるとした触覚・固有受容覚・前庭覚がこれらの中に含まれており、触覚・痛覚・前庭覚（回転後眼振）・固有受容覚（全身への圧迫）・視覚の部分で感覚入力が調節できないことが次の適応行動への段階に移れないと考えられる。これは精神遅滞児の評価をする際に感覚入力状況が重要な項目であることを示唆する。

SOKABEM Asahiro, NARUSE Keiji, SAI Shorei, **YAMADA Takako**, KAWAKAMI Keisuke, INOUE Mmasumi, MURASE Kichiro, MIYAZU Motoi

Mechanotransduction and intracellular signaling mechanisms of stretch-induced remodeling in endothelial cells.

Heart and Vessels 112 : 191-193, 1997

Abstract: We investigated the signaling mechanism of stretch-induced cell remodeling in human umbilical vein endothelial cells (HUVECs). Freshly dissociated HUVECs were cultured on an elastic silicon membrane and subjected to uniaxial cyclic stretch (20% in length, 1 Hz). The cells started to change their morphology as early as 15 min after stretch onset, and most cells eventually aligned perpendicularly to the stretch axis within 1 h. This remodeling was dependent on the increase in intracellular calcium concentration ( $[Ca^{2+}]_i$ ) via a  $Ca^{2+}$ -permeable stretch-activated (SA) channel. During the process of remodeling, extensive rearrangement of stress fibers and focal adhesions was observed, which may be close to the final step in the intracellular signaling cascade. This event was  $[Ca^{2+}]_i$ -dependent, suggesting the existence of a  $Ca^{2+}$ -dependent intermediate cascade that links  $[Ca^{2+}]_i$  to the rearrangement of cytoskeletons and focal adhesions. We

found that some proteins, including pp125<sup>F</sup>AX (focal adhesion kinase) and paxillin, were tyrosine phosphorylated during cyclic stretch in a Ca<sup>2+</sup>-dependent manner. Inhibition of this tyrosine phosphorylation prohibited the stretch-dependent rearrangement of cytoskeletons and focal adhesions as well as the remodeling. Finally the tyrosine kinase *src*, which could phosphorylate pp125<sup>F</sup>AK, was found to be activated in a [Ca<sup>2+</sup>]<sub>i</sub>-dependent way during stretch. All of the above molecular events were consistently Ca<sup>2+</sup>-dependent, which led us to propose the signaling cascade: SA channel activation → [Ca<sup>2+</sup>]<sub>i</sub> increase → *src* activation → protein tyrosine phosphorylation → rearrangement of cytoskeletons and focal adhesions → cell remodeling.

## 〔学会発表〕

### 原 和子

作業形態に関するモデル化の試み—Georg Kershensteiner の作業教育論から— (総会プログラム p. 7, 1997)  
第 7 回日本作業行動研究会, 1997. 6 (長岡)

### 中島美奈子, 森下加子, 広田 薫, 井神隆憲, 美和千尋

精神病院開放病棟入院患者の作業療法に対する理解 (作業療法 16(特別): 229, 1997)  
第 31 回日本作業療法学会, 1997. 6 (長岡)

### 美和千尋, 岩瀬 敏, 松川俊義, 杉山由樹, 間野忠明, 小出陽子

安全な入浴方法の検討—41℃入浴時の生体の変化から—  
第 5 回愛知作業療法学会, 1997. 4 (名古屋)

### 安藤陽子, 佐藤陽子, 金子幸子, 美和千尋, 井神隆憲

—慢性分裂病患者とその家族への援助 (作業療法 16(特別): 79, 1997)  
第 31 回日本作業療法学会, 1997. 6 (長岡)

### 美和千尋, 井神隆憲, 安藤陽子, 佐藤陽子

精神分裂病患者の興味に対する作業療法の効果 (作業療法 16(特別): 233, 1997)  
第 31 回日本作業療法学会, 1997. 6 (長岡)

### 高田政夫, 杉村公也, 来島修志

在宅痴呆老人の実態 (地域作業療法研究会誌 2: 14, 1997)  
第 2 回地域作業療法研究会学術集会, 1997. 2 (熊本)

### 高田政夫, 杉村公也, 来島修志

介護者のための在宅痴呆老人チェックリスト作成の試み (作業療法 16(特別): 156, 1997)  
第 31 回日本作業療法士学会, 1997. 6 (長岡)

### 山田恭子, 成瀬恵治, 曾我部正博

血管内皮細胞の形態応答における cAMP 動態  
第 74 回日本生理学会, 1997. 3 (浜松)

**山田恭子**, 成瀬恵治, 曾我部正博

周期的伸展刺激による内皮細胞形態応答における cAMP の動態  
第 2 回理学療法の医学的基礎研究会学術集会, 1997. 5 (東京)

## 編集後記

昭和 52 年 10 月、名古屋大学医療技術短期大学部は創設された。創設 12 年後の昭和 64 年 3 月に名古屋大学医療技術短期大学部紀要が創刊された。創刊号には故早川幸夫学長からの「紀要の発刊に寄せて」と題された一文が巻頭言をかざっている。その巻頭言に述べられたように、紀要は「研究の重要な段階を踏み出すもの」として、以来 10 年間にわたって利用されてきた。

平成 9 年 10 月、名古屋大学医療技術短期大学部は名古屋大学医学部保健学科に改組転換され、名古屋大学の一学科として装いを新たに発足することとなった。この新たな状況は紀要創刊号の巻頭言に別に述べられている、「紀要に論文を発表することで終ることなく、より高度な学術誌にふさわしい内容と水準」をめざすことが一層求められることを実感させた。

そして、10 年間にわたり第 10 巻まで発刊されてきた紀要は、その役割を終え廃刊とすることになった。廃刊は一時代を終えた「達成感」の具体化であるとの一文が、第 10 巻の編集後記に書き添えられている。そして、平成 11 年 3 月、名古屋大学医学部保健学科「教育・研究年報」が創刊される運びとなった。

年報は多くの国際誌の原著を含めた研究業績や講演会などの教育業績を集録している。大学は自己・外部と様々な評価を受けることが求められており、年報はその資料として作成される。しかし、同時に年報は保健学科内の研究交流の資料として、また、「教育・研究年報」とあるように保健学科が教育への評価を重視する姿勢を保ち続ける指標として利用されることを願って作成された。

今後、年報が号を重ねるごとに集録される項目の重厚さが増していくことを期待したいと思う。

最後に、名古屋大学医学部保健学科「教育・研究年報」の創刊にあたりご尽力いただいた編集委員の先生ならびに今村佳代子図書掛長に深謝申し上げます。

年報編集委員会委員長 古池 保雄

### 年報編集委員

看護学専攻	松村 悠子
放射線技術科学専攻	前田 尚利
検査技術科学専攻	古池 保雄
理学療法学専攻	河村 守雄
作業療法学専攻	井神 隆憲

---

名古屋大学医学部保健学科教育・研究年報 第1巻

1999年3月12日 発行

発行 名古屋大学医学部保健学科

〒461-8673 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号

TEL (052)719-1504

印刷 (株)荒川印刷

〒460-0012 名古屋市中区千代田2丁目16番38号

TEL (052)262-1006 (代表)

---